①「手引き」の目的

- この手引きは、保育所や幼稚園等の現場で、主に保育士や幼稚園教諭等の皆さんにご活用いただくことを目的として作成したものです。一人ひとりの子どもの個性を大切にしながら、適切な支援や関わり方を考えるための参考書として作成しています。
- また、現場で子どもの発達について気になることがあった場合には、手引きの「Ⅱ②　子どもの気になる様子～こんなこと、ありませんか？～」や「「Ⅱ③　日常的な支援のポイント」を参照し、子どもがなぜそのような行動をとるのか、どう接したらいいのかを考える際の参考としてご活用いただけます。
- さらに、発達障害などのリスクが心配されるお子さんについては、早い段階で専門的な支援につながることが必要ですので、本書ではそのための情報も提供しています。
- 子どもにとっての最善の利益が尊重されるよう、本書を有効活用していただければ幸いです。

②「手引き」の活用方法

● この「手引き」の活用は、以下の３段階で考えてください。

第１段階　子どもの発達についての参考資料としてご活用ください

● まずは気軽に、“子どもの発達についての参考資料”としてご活用ください。**Ⅰ④「子どもの発達の様子とあそびの様子（P６）」**、**Ⅰ⑤「乳幼児発達表（P10～P11）」**をご参照いただき、一般的な子どもの発達の様子を確認してください。発達の遅れが気になる場合でも、個人差により少しだけ遅れている可能性もあります。子どもの発達を促す接し方を考えて実行してみてください。

第２段階　子どもの発達について気になることが見つかった場合

● まずは**Ⅱ②「子どもの気になる様子 ～こんなこと、ありませんか？～ （P14）」**を参照してください。
● 気になる項目があった場合には、**Ⅱ③「日常的な支援のポイント（P15～）」**を参照し、子どもへの接し方や支援のしかた等の参考にしてください。

第３段階　現場だけでの支援が難しいと感じた場合

● 「手引き」の**Ⅳ①「気づきから支援までの流れ（P40）」**を参照し、「市への相談」などを検討してください。
● 気になる子どもの様子を保護者と共有する場合は十分な配慮が必要ですので、**Ⅲ①「保護者と接する際の配慮（P36）」**などをご参照ください。

③子どもに寄り添う時に意識しておきたいこと

子どもに寄り添い、一人ひとりに合った支援を工夫する時に意識したい、基本的な考え方を説明します。

1 まず、子どもに寄り添い、子どもの様子を観察しましょう！

- 子どもの様子をよく観察し、困っている様子に気づきましょう
- 気になる行動などが、いつ、どんな時に起るのかを観察しましょう
- すぐに「障がいの有無」で判断せず、「困っているのは子どもである」という視点で考えましょう

子どもが困っていることの例

- 感覚が過敏
- 分からなくて不安
  - これからどうなるのか？
  - ここがどういう場なのか？
  - どこに何を置けばいいのか？
  - 今何をすればいいのか？
  - どんなルールで遊んでいるのか？
  - 先生の話が分からない　など
- みんなと一緒だと落ち着かない
- 食べられるものがない
- 言いたいことが言えない　など

2 子どもの気持ちを理解しましょう！

- なぜそういう行動をするのか、そういう状態になるのかを考えましょう（本書のⅡ②、Ⅱ③が参考になります）
- 子どもの標準的な発達の様子を踏まえて考えましょう（本書のⅠ④、Ⅰ⑤が参考になります）
- 子育ての大変さを理解して、保護者の気持ちに寄り添いましょう

3 その子に合った保育を工夫しましょう！

- 子どもにとって最も良い方法を考えて工夫し、実行してみましょう
- その子の特性や困っている内容を踏まえた上で、支援方法を考えましょう（本書のⅡ②、Ⅱ③が参考になります）
- 子どもたちが自ら行えるようになるための支援方法を工夫しましょう
- ゆっくりと発達する子には、その子のペースに合わせた方法を考えましょう
- 保護者と連携して、その子に合った方法を探しましょう

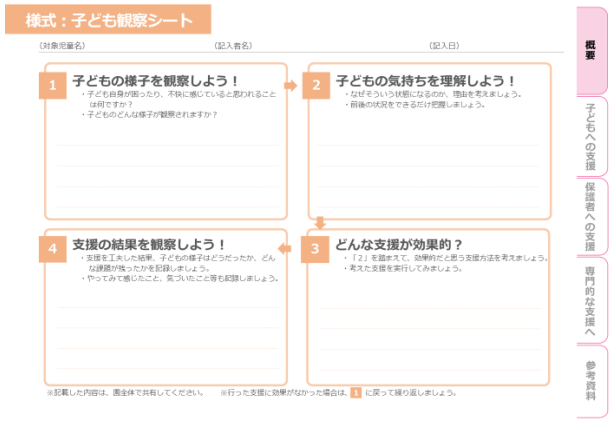
次ページへ！

③子どもに寄り添う時に意識しておきたいこと

4　試行錯誤を繰り返しましょう！

- 引き続き子どもの様子を観察し、**行った支援が効果的であったのかを考えましょう**
- うまくいかなかった場合には、1 に戻って試行錯誤を繰り返しましょう
- 挑戦した**結果を記録して他の保育者と共有**しましょう
  （次頁の「子ども観察シート」が役に立ちます）

子ども観察シート　※次頁参照


様式：子ども観察シート

（対象児童名）　（記入者名）　（記入日）

1 子どもの様子を観察しよう！
・子ども自身が困ったり、不快に感じていると思われることは何ですか？
・子どものどんな様子が観察されますか？

2 子どもの気持ちを理解しよう！
・なぜそういう状態になるのか、理由を考えましょう。
・前後の状況をできるだけ把握しましょう。

3 どんな支援が効果的？
・「2」を踏まえて、効果的だと思う支援方法を考えましょう。
・考えた支援を実行してみましょう。

4 支援の結果を観察しよう！
・支援を工夫した結果、子どもの様子はどうだったか、どんな課題が残ったかを記録しましょう。
・やってみて感じたこと、気づいたこと等も記録しましょう。

※記載した内容は、園全体で共有してください。　※行った支援に効果がなかった場合は、1 に戻って繰り返しましょう。

概要
子どもへの支援
保護者への支援
専門的な支援へ
参考資料

「子ども観察シート」を使って試行錯誤を繰り返し、園の現場で情報を共有しましょう！

5　子どもの様子を観察し、工夫することで、保育者の成長にもつながります！

- 子どもの様子を観察し、仮説をたてて支援する試行錯誤を通じて、教育・保育の質を高めることができます
- 子どもに寄り添い、子どもの気持ちを受け止めた上で保育を工夫し、試行錯誤を繰り返すことが、**保育者の成長**につながります

様式：子ども観察シート

（対象児童名）　　（記入者名）　　（記入日）

1 子どもの様子を観察しよう！

・子ども自身が困ったり、不快に感じていると思われることは何ですか？
・子どものどんな様子が観察されますか？

2 子どもの気持ちを理解しよう！

・なぜそういう状態になるのか、理由を考えましょう。
・前後の状況をできるだけ把握しましょう。

3 どんな支援が効果的？

・「２」を踏まえて、効果的だと思う支援方法を考えましょう。
・考えた支援を実行してみましょう。

4 支援の結果を観察しよう！

・支援を工夫した結果、子どもの様子はどうだったか、どんな課題が残ったかを記録しましょう。
・やってみて感じたこと、気づいたこと等も記録しましょう。

※記載した内容は、園全体で共有してください。　※行った支援に効果がなかった場合は、1 に戻って繰り返しましょう。

④子どもの発達の様子とあそびの様子

発達の様子

０歳児（６か月未満）

○【１～２か月】：浅い眠りの時に生理的微笑

○【３か月】：首がすわり始める。社会的微笑。ハンドリーガード

○【４か月】：自分から相手に微笑みかける

○【５か月】：寝返りができ始める

○自発的に物をつかむことができる（リーチング）

○母親などには声を出して笑いかけるが、見慣れない人はじっと見つめる。社会的・選択的微笑

０歳児（６か月～１歳）

○【６～８か月】：人見知り。母親や保育士などへの特定化を強めていく。後追いや夜泣きなどの「８か月不安」

○【７～８か月】：お座りができ始める。ずりばいでの移動

○【９か月】：四つばいで移動。お座り上手。つかまり立ち、つたい歩きを始める。指さした先にある物を見つける（共同注視・ジョイントアテンション）

○【10か月】：自分の名前が分かり、呼ばれると手をあげる。やりとり遊びが上手になる。（物を媒介としたコミュニケーション）

○【11か月】：一人で立つ。定位の指差し

○【１歳】：歩行が始まる。簡単な言葉の理解が始まる

あそびの様子

０歳児（６か月未満）

○「不快→快」のやりとりを大切に！
→お腹がすいた等、「不快」を泣いて訴えます。大人がキャッチして対応しましょう

○笑顔を引き出す

あやすと笑う社会的微笑がみられます（おはしゃぎ反応）。全身運動も誘発し、発達を促しましょう

○いないいないばあ、喃語のまねっこ、くすぐりあそびなど

０歳児（６か月～１歳）

○背中がしっかりしてきたら、ゆっくりとゆさぶり遊び（６か月頃～）、横抱きにし、歌いながら左右に軽く揺らす

○お座りで両手を使って遊ぶ（９か月～）

○つかまり立ちからつたい歩きができるようになると、目標をとらえて移動するようになる

○発語を促す関わり
→大人が、手さし、指さし、言葉（喃語・音声）に丁寧に対応することが大切です

④子どもの発達の様子とあそびの様子

発達の様子

1歳児

○「指さし」等を支えにして、子どもは表象（イメージ）を獲得していく

○親指と人差し指で、小さい物をつまめるようになる

【1歳半頃】

○「指さし」での伝え合いや、聞かれた物を指さす応答（可逆）の指さしができるようになる

○一語文が増えていく（ワンワン、ニャンニャン、マンマ）

2歳児

○ことばがどんどん増えてくる（二語文、「ワンワン　いた！」など）

○「大きい」「小さい」がわかる

○「見立て」の力、「つもり」になる力、ごっこ遊びに発展

○自分の領域を守ろうとして、食べ物やおもちゃ等を独り占めしようとする（自我の拡大）
→自我を尊重しつつ、大人の力を借りて、他者にも目が向けられるよう配慮しましょう

○自分でやりたいという気持ちが強くなる

あそびの様子

1歳児

○指さしでの表現に付き合ってあげる
→子どもが指さして求めた時は、すぐに取ってあげるだけではなく、「これがほしかったの？それともこれ？」と尋ねてみましょう

○言葉にならない思いを受けとめる
→「ブーブー」という子どもの発言に、「車ブーブーいっちゃったね。バイバイだね」などと具体的な言葉にして応え、語りかけましょう

○歩けるようになり、散歩大好き。絵本も大好き！

○お絵かき、紙に点を打つ、腕を振りながら描く

○砂遊び大好き、「～取ってきて」の手伝い大好き。往復ができる

2歳児

○見立て遊び、つもり遊びができる（積木を家に見立てる、お人形に食事をさせたつもりになってあそぶ）
→シンプルなオモチャを与えましょう

○見通しを知らせて
→「お片付けして」では素直にきけません。「片付けたらお散歩行こうね」などと、先の見通しを伝えましょう

○豊かな言葉
→会話が始まるので、話し相手になりましょう。大人が「やさしく」「そーっと」言葉をかけてあげましょう

○お絵かき
→○を描いて「おだんご」などと意味づけをしますので、聞いてあげ、子どもの言葉に共感しましょう

④子どもの発達の様子とあそびの様子

発達の様子

３歳児

○片足立ちができるようになる

○土踏まずができ、長く歩く力がつく

○自律のための抵抗期（反抗期）
　→自分のことは自分で決めたい
　→聞こえているのに、聞こえないふり
　→「片付けなさい」「片付け手伝ってね」

○できないのに、「ジブンデ」「見ててよ」

○自分のことは棚にあげて、言いつけ魔になる

○お手伝いが大好き

○貸し借りや順番ができ始める

４歳児

○両手の協応操作、手と足の協応運動ができる

○子どもたちは、現実に近いまなざしを持ち始める

○「上手ー下手」「できるーできない」が分かり、自己評価できるようになる

　→褒め方のバリエーションを豊かに
　→自信を失わせないように
　→ちょっと頑張って出来た達成感を共有する

○「大きいー小さい」という対になった概念の中に、「中くらい」というとらえ方が成立してくる

○ジャンケンがわかる
　→分かったら何度もやりたくなる

あそびの様子

３歳児

○ごっこあそび
　→友達と関わりながら、ごっこ遊びを豊かにする。日常生活で体験したことを言葉や動作で再現

○お友達と仲良く、時にはぶつかり合い
　→遊びの中で自己主張しながら、相手の思いに気づく。ぶつかり合いの時は、大人が仲介を

○構成あそび
　→ブロック、パズル、積木などで、縦・横さらに斜め方向の認識も出てくる

○お絵かき
　→身近に紙と鉛筆を置き、危険に配慮し描きたい時にいつでも描ける環境を整える

○簡単なルールのあるあそびが楽しめるようになる

４歳児

○手先が器用になり、道具が上手に使えるようになってくる
　→はさみやお料理のお手伝い等、家庭や保育で道具に触れる機会を！

○折り紙、ビーズなど、手先を使う遊び
　→手先が器用になるので、微細運動が上手にできるようになってくる

○身体を使うダイナミックなあそび、指先を使う細かいあそび、ルールのあるあそび

○お話しが上手になるので、じっくり話をきく

○イメージを共有したごっこあそび
　→仲間との関係を意識した言動が多くなる

④子どもの発達の様子とあそびの様子

5歳児

発達の様子

- ○人と関わる中で、自己コントロール（我慢・待つ・受け入れる等）、やって良いこと、悪いことの判断ができるようになる
- ○当番活動（水やり、清掃、飼育、食事他）を通して、責任感や思いやり、労り、優しさ、人間関係を構築する
- ○他者の前で自己の思いを発表したり、友達や先生の話を聞いたりする等の態度が身につく
- ○友達関係も密になり、気の合う友達やグループでの遊びで、ルールを守って競い合うことができる

あそびの様子

- ○遊びの中で役割分担が出来、自分で作ったルールで遊ぶ
- ○競争心が芽生え、グループで競い合う遊び(ドッジボール、サッカー、鬼ごっこ、リレー他）を自分達で楽しみ、進めることができる
- ○文字に興味を示し、言葉遊びやなぞなぞ、絵本作り、郵便ごっこ等、主体的に活動する
- ○友達とイメージを出し合い、劇ごっこ・学校ごっこ等、表現する楽しさに興じて遊ぶ
- ○自分の思いや友達の思いを受け止めながら、仲良く遊ぶ
- ○他者への憧れと思いを抱きながら、自分や友達の行動を意識し、真似て遊ぶ

編集委員より

“あそび”は、子どもにとって大切なツールです！

沖縄女子短期大学　羽地　知香

支援が必要な子どもにとってあそびは、気持ちを和らげ、大好きな大人や友達との心のつながりを作る大切なツールです。遊びを通し、人と関わることの心地良さを感じていきます。大人も、ねがいだけでなく、子どもの姿、気持ち、想いを共有、共感していく事が大切です。そのためには、子どもの表面だけでなく、子どもの体の育ち、心の育ちを感じましょう。

友達との関係作りが苦手な子どもは、感覚的な遊びを通して、心地良さを味わう事が重要です。心地良い気持ちは、人に伝えたい気持ちに変化していきます。遊びを通じて「たのしかった」「またやりたい」と思う気持ちを感じる事が人を育てる源になります。保育の引き出しを持ちながら、その出し方や内容を園内で話し合い、保育者にとっても子どもたちにとっても楽しい保育を行ってください。結果はすぐにでない事もあるかもしれませんが、今、先生方が子どもに向きう事は、子どもたちのこれからの成長と発達に大切な事だと思います。

⑤乳幼児発達表

【０歳～２歳未満】　※この表はあくまでも目安です。発達には個人差があります。

	0～2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7～8か月	9か月	10か月	11か月	1歳～1歳3か月	1歳3か月～1歳6か月	1歳6か月～2歳
生活習慣	排泄											・排尿間隔が2時間を超えるようになる
	食事			離乳食開始 なめらかにすりつぶした状態		舌でつぶせる固さ	歯茎でつぶせる固さ			歯茎でかめる固さ。手づかみやスプーンを使い自分で食べようとする	離乳食完了	
	着脱										・着脱を自分でしようとする	
全身運動	・あおむけで左右非対称な姿勢	・あおむけで左右対称な姿勢 ・首がすわり始める	・手と手、足と足をふれ合わせる	・手や足をつかんだり、つかんだ足を口に入れたりする ・うつ伏せでは、てのひらで支える	・寝返り・旋回をする	・ずりばいでの移動が始まる ・お座りができ始める	・四つばいで移動する ・つかまり立ちし、伝い歩きを始める	・四つばい→お座り→つかまり立ち→お座りなどの姿勢変換が自由にできる	・高ばいをする ・ひとりで立つ	・歩行が始まる		・目的に合わせて、体を方向転換する ・両足跳びや段差からの飛び降りに挑戦する ・走る
手指の操作	・物を持たせると５秒程度持っている	・持っている物を取り上げようとすると少し抵抗する	・持っている物を口に入れたり、振ったりする	・自発的に手を伸ばしてつかむ（リーチング） ・手指がもみじ状に開く	・両手把握を媒介にした持ち替えをする	・手に取った物を自ら離すことは難しい	・左右の手にそれぞれ物を持ち、自分から離すことができる ・「散らかす」操作が盛ん	・器に物を入れようとする、積木を積む等が見られる ・親指と人差し指で斜め上から小さい物をつかむ	・左右交互に持った物をのせる、入れる、くっつける、相手に渡す等ができる。	・器への入れ分けは難しくどちらか一方へ入れてしまう ・積木を２個程度積む	・スプーンやコップで食べ物や砂などをすくったり、入れたりする ・積木を３～10個積む	・器への入れ分け、移し替えをする ・積木を長く並べ、その過程でゆがみの調整をする ・ぐるぐると丸（円錯画）をかく
言語・理解	感覚系（視覚） ・「点」としての追視	「線」としての追視 ・母親を目で追う	・「面」としての追視ができる	・全方位に追視ができる	・２つの物を右、左、右などと繰り返し見比べる	・指さすとその指先や指した人の顔を見る ・抱っこされる時に両手を伸ばす	・指さした先にある物を見つける（共同注視・ジョイントアテンション） ・要求の手差しが見られ、二音の反復音声を発する	・初めての意味のある言葉「マンマ」等がでる ・要求の指さしが見られる ・「おつむてんてん」等の身振りを模倣する	・見つけて嬉しい物を指さす（定位の指差し） ・一定の事物に一定の音声が結び付く	・簡単な言葉の指示を理解する	・四足動物は「ワーワ」、食べ物は「マンマン」など共通する特徴をもつグループの名称としての言葉を発する	・聞かれたものを指さす（応答・可逆の指差し） ・目や耳など対になったものを答える（対の指差し） ・「ワンワン」「ニャーニャ」などと区別し、表現するようになる
自我・社会性	・うとうとした時、微笑んでいるような表情が見られる（生理的微笑）	・あやしかけに、微笑み返す（社会的微笑）	・自分から相手に向かって微笑みかける	・親しい人には笑いかけ、知らない人はじっと見つめる（社会的・選択的微笑）	・知らない人と対面すると、背を向けたり振り返ったりを繰り返す	・母親や保育者などへの特定化を強め、後追いや夜泣きが多くなるなどの「8ヶ月不安」が見られる ・知らない人の顔をわざわざ見て泣く	・特定の人をよりどころにしながら、外の世界へも気持ちを向け始める ・人の表情から場面の意味を読み取る	・「ちょうだい」に対し渡そうとする ・鏡に映った自分と他人を見分ける ・名前を呼ばれると手をあげる	・得意、照れる等の感情を示す	**自我の芽生え** ・「ダメ」と禁止されると激しく抵抗するが、要求が持続しない		・場面の切り替え、気持ちの立ち直りができ始める ・噛みつきがみられることもある ・要求実現の際に「～チャンモ」と自分の名前を使う

⑤乳幼児発達表

【２歳～７歳未満】　※この表はあくまでも目安です。発達には個人差があります。

		2歳～2歳6か月	2歳６か月～３歳	３歳～３歳６か月	３歳６か月～４歳	４歳～４歳６か月	４歳６か月～５歳	５歳～５歳６か月	５歳６か月～６歳	６歳～７歳未満
生活習慣	排泄	・排泄の予告をする	・オムツの使用が減り、パンツへ移行していく			・排泄の自立 ・おもらししなくなる				
	食事	・スプーンを正しく持つ ・箸を使い始める				・箸だけで食事をするようになる				
	着脱	・座ってズボンを脱ぐ、はく ・上着を脱ぐ、着る	・靴をはく	・ボタンをとめる ・衣服の前後、表裏が分かる		・ひとりでだいたい着脱できる				
全身運動		・「速い－遅い」「高い－低い」「強い－弱い」などの動きを調整し始め、言葉に合わせて動作を開始・制止することに挑戦する	・開脚、背伸び、両手を上げる、片足を上げるなどの姿勢が可能になる ・左右の足を交互に出して階段を上る ・三輪車を足でけって進む	・「～シナガラ…スル活動」への挑戦が始まる（例えば、ケンケン、三輪車をこぐなど）	・「～シナガラ…スル活動」ができ始める		・ぞうきんがけ、走りながら縄跳びするなど、多様な「～シナガラ…スル」活動が可能になる	・自転車や竹馬などに乗る ・つま先立ちや片足立ちなど不安定な姿勢での静止制御に挑戦する	・棒の上り・下りをする ・幅跳びは１m程度、垂直跳びは20cm近くに達するようになる	・「気をつけ」の姿勢や正座などの正姿勢が短時間とれるようになる ・片足跳び前進、連続スキップ、連続横跳びなどができるようになる
手指の操作		・粘土など指先に力を入れて形を変える ・モデルをまねて縦線や横線を描く ・Vサインをする ・シールをはがす、紙を折る	・「並べる」＋「積む」という異なる操作を組み合わせて１つの物（ﾄﾗｯｸや家など）を構成する ・十字や丸を描く ・折紙の表裏を理解し、二つ折りや四つ折りをする	・モデルと共に両手の交互開閉が数回できる ・顔らしきものを表現する	・片手で紙を動かしながら、ハサミで形を切り抜くことに挑戦し始める ・顔の表現（目・耳・鼻・口・髪など）が豊かになり、「頭足人」を描くようになる	・モデルなしで両手の交互開閉ができるようになる ・道具を使う手と素材を支える手という両手の機能分化が進む ・四角形を描く	・人物画で胴体を表現する	・積木課題では「斜め」を含む階段の構成に挑戦し始める ・三角形を描く	・横向きの人物画を表現し始める ・だんだん大きくなる丸を描く。「中」が分かり始め、大きさとしての「中くらい」、両端から数えて「真ん中」が分かるようになる	・まゆ、歯、服など、人物画の表現が詳細になる ・ひし形を描く ・コマ回し、泥だんごつくりなど、より細かい作業が可能になる ・友達との共同製作が可能になる。
言語・理解		・「ワンワン イタ」など二語文を話すようになる ・作った物を何かに見立てる ・大－小、長－短、多－少など、二次元的な認識を獲得する	・「ナンデ？」と質問が多くなる ・性別（男女）、姓名（名字と名前）、年齢（2歳の次は3歳など）を獲得する	・経験を言葉で伝える ・数について多面的な理解が始まる。1,2,3と呼称すること、物と数を対応させて数えることなどができるようになる	・数の理解では、呼称・対応だけでなく、概括（呼称した最後の数が全部の数を表すこと）や選択（「3個ください」と言ったら、たくさんの中から3個選ぶ）、復唱３桁まで可能になってくる	・乱暴な言葉や汚い言葉を好んで使う ・復唱４桁ができ始める	・数の呼称、概括、選択では「10」まで可能 ・その日や過去の出来事について、接続詞を用いながら複文で話すことができる ・言葉が行動の自己調整を持ち始める	・「ｸﾞｰ、ﾁｮｷ、ﾊﾟｰ」、信号「赤、青、黄」など３個１セットのルールに興味を持ち始める ・自分の左右が分かり始める ・20以下の呼称、対応、概括が分かり始める	・「過去･現在･未来」、「左･真ん中･右」、「好き･普通･嫌い」など三次元の世界が形成され始める ・自分の経験について「あのね、えーっとね」と文脈を作って相手に分かるように説明する	・三次元の世界が密度高く豊かになる ・理屈を根拠とした言語的な説明が可能になる ・「読み・書き・算」への関心が芽生える ・文字に関心が高まり、交流手段として手紙を書く
自我・社会性		**自我の拡大** ・気に入った物や場所を独り占めしようとする ・お菓子の配分など自分の分を最大にしつつも他者にも最小限配り、他者とのつながりをもとうとする ・「ジブンデ」したいなど、認めてほしいという気持ちが強まる	**自我の充実** ・信頼できる人間関係のなかで、自分の意図や要求を主張し、受け止められる経験を通して他者を受け入れること（自我の充実）ができ始める	・「ボク」「ワタシ」を認識し、表現する ・自己主張もするが、他者受容も強まり、お手伝いを喜んでする ・好きな友達との間で貸し借りや順番・交代などができ始める	・チャレンジ精神旺盛になる ・「役に立つ自分」を発揮したくて、掃除・片付けなどを手伝おうとするが、最後までやり遂げることは難しい ・気持ちの調整が上手くできずに感情的になったり、攻撃的になったりする	・「ダッテ～ダカラ」と根拠を示して自己主張したり、「～ダケレドモ…」と内面的調整をし始める	**自制心の形成** ・「もっと遊びたいケレドモお片付け」など「～ダケレドモ…スル」という自制心が形成される ・年下の子に、お手本を示したり、手を貸すなどし教えてあげられるようになる	・「できたーできない」の二分的評価から「～したらできる」という系列的評価へ進み始める ・自分の体などの「大きさの変化」をとらえ始める ・将来なりたいものについて答える	・友達同士の世界を作り始める ・お友達にやり方を示し、間接的・部分的手助けができる ・教えてあげた友達の「デキタ！」という経験が自分自身の喜びの経験となり、自己信頼感を培う	・社会的ルールの理解が始まる ・売り手と買い手など、二手に分かれた遊び、勝ち負けのあるゲームを楽しむ（例：お店屋さんごっこ、かるた、ドッジボール、鬼ごっこなど） ・相手の気持ち・立場を考え、相手の過ちに対し謝罪があれば許すことができ、故意かどうかにも注目するようになる

編集委員より

“子どもは何を経験しようとしているのかな？”の視点を大切に！

沖縄市立中の町幼稚園　　古謝　百合子

幼稚園で出会う子どもたちは素敵な個性を全身で表現してくれます。泣いたり、笑ったり、怒ったり、喜んだり、行動すること全てにその子なりの思いや考えがあります。

子ども自身は「自分でやってみなくちゃ本当に楽しいことなのか何なのか分らない」とは考えていなくても、成長や発達に必要な経験を遊びや生活の中でやってみようとします。泣いたり、怒ったり、すねたり、黙り込んだり等の困ったように見える行動にも、不安を表現したり愛情を求めたり、その子なりの意味があります。言葉で表現することはできなくても、子どもの行動には必ず子どもなりの思いがあるのではないかということを心に置きながら、子どもと関わります。

教師や保育士の役割として、子どもの遊びや行動の意味を理解しようとする気持ちを持って関わることが大切になります。子どもがどんなことを経験しようとしているのか、また何を経験したいのかを理解するためのヒントが今回の手引きには盛り込まれています。子どもが、全身で表現し発信してくる思いについて手引きを基に保育園や幼稚園の職員全員で共有することで、その子に合った支援を見つけ出せると思います。

子どもは日々成長します。少しずつでも毎日待った無しだと考えます。だからこそ、子どもが行動した場面に即応できる支援を共に目指したいですね。

編集委員より

“子どもが何かを発信してるかも？”と考えてみては？

社会福祉法人若草福祉会　さかえ保育園　　山里　香織

子どもと関わる中で「どうして？」と感じることはありませんか。落ち着かない子、感情のコントロールが苦手な子、集団から外れちゃう子。そんな子どもの姿に困っている保育者は多いと思います。

では、保育者の気持ちにあわせればいい子なの？　本当に困っているのは子ども自身。

「気になる姿＝障がい」と決めつけるのではなく、“子どもが何かを発信しているのかも？”と考えてみてはどうでしょう。その子の状況や気持ちをイメージすることで子どもを理解し、その子ども一人ひとりに合った関わり方が見つかると思います。

私自身が発達支援保育で大切にしていることは、子どもの行動には意味があると考えること、できない評価をするのではなく「〇〇するとできるようになる」といった「できるようになる」ことを意識した関わり方をすることです。保育現場で見られる様々なシーン。うまくいかないなと思ったら関わり方を変えてみたり、目標設定を変えてみたりすることも一つの方法です。また、周りの保育士との情報交換や語りあうことを通じて支援の輪が広がっていくと思います。「スモールステップの更にスモールステップでもいいよ」と思うことで保育士のモチベーションを保ち、子ども自身のたくさんの発見や成長を感じるシーンが見つかります。

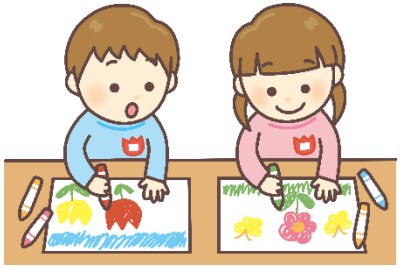
この手引きを参考にしながら、子どもが毎日楽しく安心して生活できるよう支援の方法を工夫していけたらいいなと思います。

①子どもの育ちをサポートするために

～子どもへの日常的な支援を考える前に～

何よりも大切なことは、子どもとの信頼関係！

この手引きを参考に、子どもの気になる様子について理解・対応し、分かりやすい環境を用意することはとても大切です。しかし、何よりも大切なことは、子どもが「先生大好き」「お友達も大好き」と思えているかどうかです。子どもの好きな遊びを保育者も一緒に楽しみ、担任が子どもの心の支えになってください。子どもが保育所・幼稚園が大好きになると、保護者も保育所・幼稚園が大好きになり、保護者との信頼関係も築きやすくなります。



子どもの好きな遊びはなんですか？

子どもは、分かりやすい活動が大好きです。追いかけっこ、砂遊び、お散歩、お絵かきなどなど。お子さんの好きな遊びは何でしょう？好きな遊びにずっと付き合うことはできませんが、できる時に一緒に楽しみ、その遊びを他の子どもたちへも広げていきましょう。大好きな先生がいて、その子なりに仲間と楽しむことができると、子どもも保育所・幼稚園の生活に少しずつ合わせていけるようになります。

ほめて育てると、子どもの自信につながります

子どもはそれぞれ個性があり、良いところがたくさんあります。しかし子どもとの関係が近い保護者は、気になる所ばかりに目がいきがちです。子どもと日々接している保育者だから、子どもの良さや頑張りに気がつくことがあります。それらを保護者に伝え、保護者からも子どもをたくさんほめてもらいましょう。また出来ていることをほめると思いがちですが、子どもが当たり前にできていること、例えば「朝ニコニコして登園してくれた」、「給食をいっぱい食べて元気で過ごした」など、子どもの好ましい行動を見つけてほめることで、子どものやる気や自信につながります。

②子どもの気になる様子　～こんなこと、ありませんか?～

アンケート調査でお聞きした“現場で困っていること”を中心に、子どもの気になる様子を以下のように園での生活の場面ごとにまとめました。

気になるポイントがある場合は、➡の先の該当ページに記載した「日常的な支援のポイント」をご覧ください。（P15以降では、アンケート調査でお聞きした“現場で工夫した事例”から「現場での取組み事例」を記載して紹介しています。）

登園時

1．登園したがらない　➡15 ページ
2．したくができない　➡16 ページ

遊びの時間

3．ひとりで遊ぶことが多い　➡17 ページ
4．友だちとの関りが少ない　➡18 ページ
5．特定の遊びにこだわる　➡19 ページ
6．思い通りにならないと泣いたり怒る　➡20 ページ
7．砂場や水あそびなどが苦手　➡21 ページ
8．思いを伝えることが苦手　➡22 ページ
9．次の行動に移る切り替えが苦手　➡23 ページ

クラスでの時間

10．一斉の声掛けで行動できない　➡24 ページ
11．じっとしていることが苦手　➡25 ページ
12．集中できない　➡26 ページ
13．椅子に座っていられない　➡27 ページ
14．集団行動や行事など、大人数が苦手　➡28 ページ
15．ルールが守れない　➡29 ページ

運動の時間

16．体を動かすことが苦手　➡30 ページ

食事の時間

17．好き嫌いがはげしい　➡31 ページ

その他

18．壁に頭をうちつけるなどの行為がある　➡32 ページ
19．保護者が迎えに来ても帰りたがらない　➡33 ページ
20．危険なことをする　➡34 ページ

③日常的な支援のポイント

登園時

1．登園したがらない

支援のポイント

子どもが登園をいやがる理由には、いろいろなものがあります。まずは子どもの気持ちを受け止めて、少しずつ登園の意欲が高まるよう支援していくことが大切です。苦手な活動や感覚等がないかどうかも、様子を観察しましょう。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○登園からずっと泣いている

○泣いていて、食事もとらない

○登園時から苛立ちがあることが多く、物を投げたり暴言を吐いたりする

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○園の様子がわからず、不安なのかも？

○園でいやなことがあったのかも？

○集団生活になじめないのかも？

○その日、園で苦手な活動があるのかも？

○お母さんと会えなくなると思っているのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○「行きたくない」という様子がみられる場合には、お家で変わった様子がみられなかったか、保護者に聞いてみましょう

○１日の流れを写真や絵にして、見やすいところに貼っておきましょう

○スケジュールが変わる時は前もって子どもと保護者に伝えましょう

○お母さんと離れたがらない子には、保育者がお母さんから信頼されている人であることを見せましょう（保護者を安心させることで、子どもも安心できます）

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○登園して何か手に持っていると落ち着く様子。好きなおもちゃを持たせたら、朝の会や絵本の読み聞かせ等、保育士が傍につかなくても一人で座って話が聞けるようになった

○体育遊びの講師のしゃべり方が怖く、幼稚園に行きたがらなかったが、講師が怒っているのではないと何度も伝えたところ、嫌と言わなくなった

○帰る時に「明日は砂場で一緒に遊ぼうね」と本人の好きな遊びを一緒にする約束をすると、次の日楽しみに登園してくれた

③日常的な支援のポイント

登園時

2．したくができない

支援のポイント

身じたくができない子どものケースは、いろいろです。「早く！」などとせかすのではなく、一人ひとりの特性や苦手なことを理解した上で、子どもが喜んでしたくできるよう工夫しましょう。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○自分の持ち物がわからない・支度ができない

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○どうやってやればいいのか、やり方がわからないのかも？

○したくの手順を覚えられないのかも？

○自分の物とほかの子の物との区別がつかないのかも？

○他のことに関心が移ってしまってしたくを忘れるのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○したくがどこまでできているかを把握し、今できていることをほめましょう。できないことは、保育者がサポートし、ちょっと手伝ってもらったらできたという達成感を共有しましょう。スモールステップで、徐々に自分でできるよう、お手本を見せたり、声かけをしましょう

○子どもが使う棚などの所定の場所にマークをつけ、わかりやすくしましょう。自分のマークに愛着がわくよう、「○○君の好きな飛行機だね」等マークへの意味づけをしましょう

○手順をかみくだいて説明する、言葉だけではわかりにくい場合には、写真や絵カードなどを使い、工夫しましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○いつもと違うと戸惑うようだったので、本当は朝のお支度がいらない行事の日でも、やりたがる子にはさせてあげて、安心できるようにした

○わかりやすい言葉で、１つずつ指示をした（帽子被ろうね、靴履こうねなど１つずつの指示）

○「準備終わったら先生のところへ来て、おててパッチンしようね」と言って、１つのしたくが終わったら子どもに来てもらうようにしている。手をパッチンすることを楽しみに、多少誘惑があっても、最後までやりとげるようになった

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

3．ひとりで遊ぶことが多い

支援のポイント

コミュニケーションが苦手だったり、お友達との遊びよりもひとり遊びを好む等の理由から、集団あそびに参加しない子どもには、無理に参加させるのではなく自然に参加できるよう支援する工夫が大切です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○自己中心の遊びとなる

○おもちゃをひとり占めしてしまい、友だちに貸すことができない

○他の子のおもちゃをとったり、噛みついたりする

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○ひとり遊びが好きなのかも？

○友達とのトラブルが多くて、ひとりになっているのかも？

○仲間に入れてもらう方法がわからないのかも？

○集団あそびに興味が持てないかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○まずは子どもと保育者との信頼関係を築きましょう。保育者を支えにしつつ、子ども自身が参加したくなる活動を準備しましょう

○言葉でケンカする力がつくまでは、奪い取る、噛むなど力づくの行為がメインになります。お友達とのトラブルが多い子は、保育者が仲立ちして遊びの幅を広げましょう

○「仲間に入れて」など、自分の意思を伝えることが苦手な子もいるので、保育者が仲介して「仲間に入れてくれる？」とお手本を示しましょう

○その子の得意な活動をクラス全体で行う時間を設け、集団で遊ぶ楽しさを本人のペースで体験してもらいましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○その子が好きな歌をみんなで一緒に歌ったり、手遊びをしたりしたことで意気投合し、気の合う友達も増え、友達に興味を持つようになった

○興味のある事は取り組むが、興味がないことには参加しないため、その子のできることを学級で取り上げて集団に入りやすくなるよう支援した。その結果、得意なことを他の子に教える等、かかわろうとする姿が見られた

○ままごとを保育者も一緒にすることで、役割のある遊びを楽しく体験した

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

4．友だちとの関わりが少ない

支援のポイント

先生や友達との関わりを持てるまでに時間がかかる子がいます。園が安心できる場所であることを伝えながら、少しずつ関わりを持てるよう支援する工夫が必要です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○言葉でうまく伝えられず、友達とのコミュニケーションがうまくとれないことによりケンカになってしまう

○友達との関わりがもてない・他者への興味関心が薄い

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○緊張や不安が高く、お友達に目が向けられていないかも？

○友達への関心が薄いのかも？

○保育士といると安心なのかも？

○興味関心が合うお友達が見つけられていないかも？

○友達どうしのルールが理解できないのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○まずは園が安心して過ごせる場所であること、担任は頼れる存在であることを分かってもらいましょう

○やることが決まっているお手伝いや当番活動を友達と一緒に行い、友達と活動する楽しさを味わってもらいましょう

○本人の好きな遊びや得意なことをきっかけに、他の子どもと関わる機会をつくりましょう

○こだわりが強く、言葉で伝えることが苦手な子は、「ごめんね」と言えることを急ぐよりも、遊びの幅を広げることで、ゆずる気持ちが芽生えてくることがあります

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○保育者が個別対応をしながら、集団に入っていけるようタイミングを見て誘うようにしている

○「お片づけが昨日よりも5分早くなったね！」「手伝ってくれてありがとう、先生とても助かったよ」などとほめることで、子どもたちのやる気が満ち溢れ、友達との関わり方も優しくなった

○絵カードや視覚的教材があると、活動の流れに入りやすかったり、友達との関わり方が良くなったりしている

○「仲間に入れて」「一緒にやろう」などと言い、友だちと関わりをもつことのお手本を保育者が示してあげる

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

5．特定の遊びにこだわる

支援のポイント

特定の遊びにこだわり、遊びのバリエーションが少ない子がいます。その子の世界を尊重しながら、少しずつバリエーションを増やしていく支援が必要です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○プラレールで遊んでいる際、友だちが声をかけても、頑なに場所を譲らない

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○自分の世界に入りこんでしまうのかも？

○ほかの遊びを知らないのかも？

○興味の偏りがあるのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○保育者がその子の遊びの世界に入って、遊びに変化をつけましょう

○その子のこだわりを軸に、関連した別の遊びに誘って、遊びのバリエーションを広げましょう

○特定の遊びにこだわり、切り替えできない時には、「あと何回やったらおしまいにする？」と本人にも考えてもらい、切り替えを促していきましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○丸い形や花火にこだわる子に、様々な色やサイズのマグネットとボードを用意したところ、形を自在に変化させて遊ぶ姿がみられた

○やりたいこと（遊び）を思う存分楽しむことができるような場や環境があると満足して、少しずつ活動の切り替えができるようになってきた

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

6．思い通りにならないと泣いたり怒る

支援のポイント

感情のコントロールが苦手な子がいます。まずは、気持ちがおさまるまで待ってから、怒っている理由を把握しましょう。怒りのコントロール方法や、怒る以外の発散方法を教えること等が必要です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○思い通りにならないと、泣く、噛みつく、怒る、癇癪をおこすなどの行動をする

○気持ちのコントロールが苦手・気持ちの切り替えが苦手

○すぐにカッとなって怒る

○自分の思いを一方的に通そうとする

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○こだわりやマイルールを乱されるのが嫌なのかも？

○怒る以外の表現方法を知らないのかも？

○怒ったら、周囲が言うことを聞いてくれた経験があるのかも？

○負けたことが受入れられないのかも？

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○子どもとの信頼関係を築き、「この保育士と○○をしてみたい」と思ってもらうことで癇癪が少なくなったりスムーズに生活が送れたことがある

○癇癪が出た時は必ず静かな場所、本人が落ち着ける場所に行き、一方的に質問したりするのではなく子どもが話しだすのを待ってみる。その後に伝えたいことを伝えていく

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○癇癪には必ず本人なりの理由があります。切り替えを促すときは、事前に予告する、言葉だけではなく次の活動に関係する物を見せるなどの工夫をしましょう

○怒りだしてしまったら、手を握るなどして落ち着かせましょう

○「嫌な気持ちになったら、先生に言ってね」と伝えるなど、怒る以外の対処方法を一緒に考えましょう

○「○○君はこう思っているんだね」などと、保育者が子どもの気持ちを代弁してあげましょう

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

7．砂場や水あそびなどが苦手

支援のポイント

水を怖がったり、水や土、粘土などの感覚や匂いを極端に嫌がる子がいます。無理に触らせるのではなく、どんな感覚なのかを言葉で伝え、その子が少しずつ興味を持てるよう支援しましょう。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○感覚が過敏で、砂場が苦手

○水風船に触れない

○手足が砂や泥で汚れることを嫌がり、遊びに入れない

○感覚が過敏で上履きを履きたがらない

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○濡れたり汚れたりすることが嫌なのかも？

○どろどろ、ねっとりした感触がきらいなのかも？

○苦手な感覚があるのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○無理をさせず、まずは保育者が触って楽しそうにしているところを見せましょう

○保育者が触った感想を、「気持ちいいね」「冷たいね」などと言葉で伝えましょう

○子どもが触れたら、ほめましょう

○嫌がる子には、触らなくてもいい、手袋やビニール袋を準備するなど、参加の仕方を工夫しましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○お友達が遊んでいる姿を見るだけでもOKにして、本人がやりたくなるまで待ってあげる

○無理強いせず、他の子が楽しく遊んでいる様子を見せながら遊びの中に誘うことを繰り返す

○汚れることを気にしている場合は、洗ったらきれいになるという体験を繰り返してあげる

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

8．思いを伝えることが苦手

支援のポイント

言葉の遅れが背景にあるため、意思表示ができない子がいます。問いかけの仕方を工夫して、コミュニケーションが図れるよう支援しましょう。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○言葉が出にくいので、気持ちを汲み取ることが難しい

○言葉が通じない・話の理解が難しい

○言葉でうまく伝えられず、ケンカになってしまう

○じゃれあいの度がすぎて、叩いてしまう

○トラブルがあった時に自分の気持ちを伝えることが苦手

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○自分の気持ちをうまく言い表せないのかも？

○言葉で意思を伝えられないのかも？

○どう伝えたらいいのか、わからないのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○「何がしたい？」という抽象的な問いかけではなく、遊びの絵カードや実物を見せて、「どっちがいいかな？」と選択してもらいましょう

○選択肢を示し子どもが選べたら、「教えてくれてありがとう」と気持ちが通じ合えた喜びを伝えましょう

○「はい」か「いいえ」で答えられるように工夫してあげることや、言葉にかわるジェスチャー、指さしなどの合図を決めてコミュニケーションを図るなど、その子に合った方法を工夫しましょう

○上手く言えない時は「○○って言いたかったの？」などと本人が言いたいことを想像しながら聞いてみましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○２歳児で言葉の出ない子に、好きな絵本やふれ合い遊びをすることで、指差しから始まり、少しずつ意味のある言葉が出てきた

○クールダウンの時間を与えると、落ち着いて話すことができるようになった。また、代弁することにより、言葉を発することができるようになった

○友達とトラブルが起きた時は状況を確認し、何が嫌だったのか、どうしたかったのか話を聴き、間に入って代弁するなどした

③日常的な支援のポイント

遊びの時間

9．次の行動に移る切り替えが苦手

支援のポイント

あそびの時間、集まりの時間、食事の時間など、行動の切り替えが苦手な子がいます。無理に切り替えさせるよりも、その子のペースに合わせて上手に誘導する工夫が必要です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○次の活動に移る時の気持ちの切り替えが難しい

○遊びに集中していて、お片付けの声かけが聞こえていない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○指示がわかっていないのかも？

○自分の世界に入ってしまい抜け出せないのかも？

○予定の変更や場所の移動がいやなのかも？

○新しいことに対応するのが苦手なのかも？

○見通しがたっていないのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○切り替えを促す言葉と動作を使いましょう

○どこまでやったら終わりにするのか、自分でタイミングを決めさせましょう

○いつものスケジュールと違うなど、予定の変更がある場合には、なぜ違うのかをしっかり説明しましょう

○活動の見通しが持てるよう、スケジュール表や絵カード、写真などを視覚情報も活用してみましょう

○切り替えができたら、頑張ったことをほめましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○選択肢を与え、本人に選ばせることで、次の行動に移行しやすくなった

○他の子よりも先に次の行動を伝えたり、場面によっては最後に声をかけたりして、臨機応変に対応した

○泣いて収拾がつかない2歳児とたまたま目が合った際に泣きが弱まったので、切り替えのチャンスだと思い、「いっぱい泣いたから、涙売り切れだねぇ」と声をかけると完全に泣き止んだ。後日にも、同様の方法で対応すると、気持ちを切り替えるきっかけになったようでスッと泣き止んでいた

○時計に動物のイラストをつけて、「ねこさんになったら片付けしようね」等、分かりやすくした

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

10.　一斉の声掛けで行動できない

支援のポイント

指示が理解できない子、集中力がなくよそ見をしている子、理解しても忘れてしまう子など、集団への一斉指示だけでは行動できない子もいます。子どもの立場に立ち、わかりやすく伝える工夫が必要です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○集団で行動できない

○大人数（集団行動）が苦手

○行事が苦手

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○指示の意味がわらないのかも？

○自分が指示されていることに気がついていないのかも？

○たくさんのことを覚えるのが苦手かも？

○注意が逸れちゃうのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○一斉指示の前に、子どもの好きな絵本や手遊びで注目させてから指示を出しましょう

○子どもがきちんと保育者の指示に注目できているかを確認し、注目できていたらほめましょう

○「大事なお話をするよ」などと言って注目させたうえで、指示は１つずつ説明しましょう

○一斉指示の後、個別にも声をかけ、指示の内容がわかっているかを確認しましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○お当番活動への参加を促していくと、指示を一緒に聞けるようになり、少人数のグループで友だちとの関わりを持つことができるようになった

○全体で行う活動の前後に、個別で接する時間を設けて話し、気持ちを安定させる時間を設けると、落ち着いて指示を聞き活動できることが多い

○一斉指導の後に、話が理解できているのか確認を行い、理解できていない子にはよりわかりやすくかみくだいて伝えている

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

11. じっとしていることが苦手

支援のポイント

集中力が切れて立ち歩いてしまったり、衝動的に外に出ていってしまったりする子がいます。そうした行動の理由やその子の特性を踏まえて支援していくことが大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○じっとしていられない・落ち着きがない
○部屋から出て行ってしまう
○そばにいる子にちょっかいを出して落ち着かない
○保育室内を走り回る

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○興味のある他の刺激に反応してしまうのかも？
○活動に興味が持てず興味がある方へ行ってしまうのかも？
○じっとしていなければならないことや順番がわからないのかも？
○気分が高まって興奮し、動きが止まらないのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○集中しやすい環境を作るために、オモチャコーナーにカバーをする、活動中はカーテンを閉めるなど、刺激を減らす工夫をしましょう
○「○○さんの好きな動物が出てくる絵本だよ」など事前に声をかけ、活動に興味が持てるようにしましょう
○どんなふうにお話を聞けばいいのか分からない子には、見本になるお友達や絵カードで教えてみましょう
○手持ち無沙汰になると動きたくなるので、「折紙を配ってね」などお手伝いをお願いし、できたらほめ、気持ちと行動を落ち着かせてみましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○落ち着きがない時には、1対1で関わったり、少し抱っこしたりなどしたら、少し落ち着く事が出来た
○その時に注目してほしくないものに布をかけたり目を引かないようにすることで、あちこちに気が散ることが以前よりも減った
○座る配置への配慮、好きな遊びに集中できる空間づくりなどで、落ち着いて過ごせることが増えた

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

12. 集中できない

支援のポイント

お集まりの時に、集中して活動できない子がいます。活動の内容が苦手、興味が持てない、他のことに気が向いてしまうなど様々な理由が考えられます。子どもの立場に立って理由を考え、支援を工夫することが大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○気が散って話を聞いてくれない

○興味がほかのことに移ってしまい、集中できない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○やり方がわからないのかも？

○興味のあるほかの刺激に反応してしまうのかも？

○クラスで今やっていることが苦手なのかも？（歌が苦手など）

○部屋が散らかっているなどの理由で落ち着かないのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○体を動かす活動をしてから、集中する活動を行うなど、工夫してみましょう

○事前に活動の説明をし、本人の苦手な部分、得意な部分を把握し、サポートできるように準備しましょう

○本人が参加できる部分はどこなのか、手をたたくなど、一部の参加でも良いので参加できるよう支援しましょう

○環境をできるだけシンプルにして、集中してほしいことを短い言葉で、わかりやすく伝えましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○気が散りやすい子の気が散らないよう、その時に注目してほしくないものに布をかけたり目を引かないようにしたら、気が散ることが以前よりも減った

○設定保育や活動を行う際に、YouTubeなどから得た指遊び等の情報を活用して取り入れたところ、製作などの活動で効果が現れるようになってきた

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

13. 椅子に座っていられない

支援のポイント

座位を保てない子がいます。足腰の筋肉の発達が十分ではないなどの身体的理由のほか、椅子が高いなどの物理的理由もあります。きちんと座れると集中力も高まるので、その子の状態に応じた支援を工夫することが大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○椅子に座ることができない
○椅子に座りたがらない
○食事中に、座っていられない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○座位を保つための筋肉が十分に発達していないのかも？
○椅子のサイズが体に合っていないのかも？
○姿勢を保つのに必要な平衡感覚がそだっていないのかも？
○興味のあるほかの刺激に反応してしまっているのかも？
○座っていなければならないことがわからないのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○平衡感覚や腕・足の筋肉を鍛えることができる運動あそびを取り入れてみましょう。例えば、ウサギさんになってジャンプしたり、トカゲさんみたいにほふく前進の動きをしたり。楽しみながらやってみましょう
○体に合った椅子で、正しい姿勢をとれるようにし、足が床についていない時は、台を置くなど工夫しましょう
○長時間座ることがわかっている時は、ジャンプやストレッチをして座ってみましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○歩き回る子に対して、足置きを作り置いてあげると、座れるようになった
○定位置に座って待てるように、テープでマークをつける。座れるようになったら、好きな絵本や、お話し、パネルシアターを繰り返して読み聞かせする
○座って待っていられたら、担任以外にも園長先生に何度もほめてもらい、座る意識が高まった

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

14. 集団行動や行事など、大人数が苦手

支援のポイント

感覚が過敏なため、大人数が集まった空間や行事などが苦手な子がいます。どのようなことが行われるのか、事前に伝えておくなどの工夫が大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○大人数や集団行動が苦手

○行事に興味がなく、参加しない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○何をするのかがわからなくて不安なのかも？

○人がたくさんいる熱気やにおいが不快なのかも？

○がやがやした声が大音響に聞こえてしまうのかも？

○遠足などで園を離れたり、いつもとちがう行動をすることが嫌なのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○行事については、事前にどんなことをどのくらいするのか、どんなところに行くのか等を伝えましょう

○行事の会場の入り口まで行けばOKとか、離れた場所から見てもいいなど、参加の仕方を考えましょう

○参加の方法を子ども自身に決めさせてあげ、達成感を持てるよう支援しましょう

○イメージができない、見通しがもてないと不安になるため、発表会などの時は、事前に本番の環境を見せる、予行練習するなどしましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○得意な面を生かして行事で発表することで、集団が苦手な子の自信につながった

○個別対応をしながら、集団に入っていけるようタイミングを見て誘うようにした

○ダンスやかけっこへの苦手意識が強く、練習時に棒立ちになったり泣くことが多かった子には、個別の声掛け、一緒に自主練習を行うこと等を通じて自信をつけられるようにした。「勝ち負けではないよ」という声掛けをたくさんした

③日常的な支援のポイント

クラスでの時間

15．ルールが守れない

支援のポイント

集団のルールが守れない子には、ルールが理解できない、ルールがあること自体がわからない、ルールを忘れてしまうなど、様々な理由があります。ルール自体をわかりやすく伝え、ルールが守れた時にはほめる等、支援を工夫していくことが大切です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○順番を待つことが苦手

○相手を従わせる行為が多い

○無理やり貫き通す

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○ルールが理解できないのかも？

○ルールがあること自体がわからないのかも？

○マイルールにこだわっているのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○ルールは、絵などでわかりやすく伝えましょう

○順番を保育者と一緒に待ったり、何番目に自分の番が来るのかを教え、見通しを持たせましょう

○みんなの様子に注意を向けさせて、少しずつまねをさせましょう

○ルールを守れている子を褒めて、その子のまねをさせましょう

○ルールが守れた時にはほめましょう

○いつでもルールを確認できる掲示物を用意しましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○わかりやすい言葉で、１つずつ伝えるようにしました（帽子被ろうね、靴履こうねなど、１つずつ指示をした）

○「まだ遊びたい」という思いを大切にして、できる限りその子が納得いくまで遊ばせてみたりしました

③日常的な支援のポイント

運動の時間

16. 体を動かすことが苦手

支援のポイント

走る、とぶ、投げるなどの基本的な動作が十分にできない子がいます。あそびを通した運動が不足している場合が多いので、あそびに様々な動きをとりいれる等の工夫が大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○ダンスやリズムに関心を示さず、発表会でみんなと同じようにできない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○走る、とぶ、投げるなどの基本的な運動ができる体力がないのかも？

○姿勢の維持や体のバランスをとることが苦手なのかも？

○人の動作をまねすることが苦手なのかも？

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○運動会の練習では、運動の苦手な子には見本の真ん前に立ってもらい、上手く真似する事ができるようになった

○ダンスやかけっこへの苦手意識が強く、練習時に棒立ちになったり泣くことが多かった子には、個別の声掛け、一緒に自主練習を行うこと等を通じて自信をつけられるようにした。「勝ち負けではないよ」という声掛けをたくさんした

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○あそび、園内での移動、階段の昇降など、園の生活の中で体を動かす機会をふやしましょう

○園内に“けんけんぱ”のマークをつけておくなど、バランス感覚を鍛える遊びを取り入れましょう

○一連の連続した運動については、１つひとつの動作に分けて教えましょう

③日常的な支援のポイント

食事の時間

17．好き嫌いがはげしい

支援のポイント

感覚が過敏で食べられないものが多い子や、集団の中で食事をすることが苦手な子などがいます。少しずつ食べられるものを増やしていくことや、食事の空間の工夫など、その子に合った方法を工夫していくことが大切です。

1　子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○偏食がはげしい

2　子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○感覚が過敏で、色、におい、食感など、何か嫌な感覚があるのかも？

○食べたことがないから嫌なのかも？

○集団の中で食べるのが嫌なのかも？

○噛むことが苦手なのかも？

3　どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○偏食には理由があります。無理強いはしない

○安心できる、落ち着ける食事場所を確保しましょう

○本人の好き嫌いや家庭での工夫点を聞き、できることは取り入れましょう

○保育者やお友達が大好きになると、真似して食べたくなります。また、たくさん遊ぶとお腹がすきます。普段の保育を充実させましょう

○まずは匂いをかぐ、かじる、ひと口だけ食べるという形で少しずつ慣れるよう支援しましょう

○クッキング保育、野菜の収穫体験などを通して「食べてみたい」という意欲を育んでみましょう

参考　現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○白い物を好んで食べる子どもに対して、苦手な野菜類は、スプーン一杯程度の量にして、味見程度に経験できるようにすると、年度終わり頃には、多くのメニューを食べられるようになった

○食に興味がなく、あまり食べない子どもに対しては、「○○○さんが食べてる所を見てみたいなぁ」と言うと挑戦してくれた。食べたことをたくさんほめると、次々に食べ始めた

○食べやすいサイズにしてあげたら食べてくれた。

○完食が必須ということではなく、苦手なものにチャレンジする姿勢を尊重してあげたら食べてくれた

③日常的な支援のポイント

その他

18. 壁に頭をうちつけるなどの行為がある

支援のポイント

柱や壁に頭をぶつける、腕を噛むなどの自傷行為をする子がいます。まずはケガをしないように配慮することが大切です。落ち着くまで様子を見た上で寄り添い、どんな状況になると自傷行為を始めるのかを把握することが大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○壁に頭を打ちつけるなどの自傷行為がみられる

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○自分の気持ちをどう表現したらいいのか分からず、葛藤している状態かも？

○「いや」と言うなどの意思表示ができずに、自分を傷つけてしまうのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○抱いて落ち着かせる、静かな部屋でクールダウンする、クッションを挟むなどの安全対策を行うなど、本人に合った対処をしましょう

○落ち着いたら、「自分でやめられたね。えらいね」などとほめましょう

○自傷が起きる原因を観察し、起きにくい状況をつくりましょう（本人の嫌がることを減らす、やってみたいことをさせてあげる等）

○こだわりが強く、見通しがもちづらいお子さんに多く見られます。園で対応しても変化がみられない時は、保護者とも相談し、巡回相談「はっち」へ相談してください

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○自傷行為に対しては、本人の思いに共感しながら、痛い事だよという事を繰り返し伝えていった

○側により抱きしめてあげ、身体を傷つけないようにし、何がしたかったのかを聞いて、気持ちを受け止めていた

③日常的な支援のポイント

その他

19. 保護者が迎えに来ても帰りたがらない

支援のポイント

帰りの時間が来ても帰るのを嫌がる子がいます。切り替えが苦手、自分のペースで帰りじたくをしたい等、理由は様々です。事前に帰りの時間を伝えておくなどの支援が大切です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○保護者が迎えに来ても帰りたがらない

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○切り替えが苦手なのかも？

○自分のペースがあり、それが園のスケジュールと合わないのかも？

○ひとりでゆっくり支度をしたいので、みんなが終わるのを待っているのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○「４時にお迎えが来るから、その前に支度をしよう」などと、予定を決めておきましょう。

○帰り支度の順番を決めるなど、落ち着いて支度ができる環境をつくりましょう

○忘れ物をしないよう、絵カードなどで確認しましょう

○後日、やりかけの遊びの続きができるように残しておきましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○無理矢理終わらすのではなく「ここまで終わったら片付けて帰りの準備しようね」と声かけを行い、気持ちを落ち着かせるようにした

○遊びに夢中になっていても「お母さんに今日遊んだこと伝えよう」と誘うと切り替えて、帰る準備をしてくれた

○今日楽しかったことを話しながら、明日の予定も伝え、期待を持たせながら見送っている

③日常的な支援のポイント

その他

20. 危険なことをする

支援のポイント

道路への飛び出し、高いところから飛び降りなど、子どもの危険な行動には注意が必要ですが、中には注意しても危険な行動を繰り返す子がいます。危険が少ない環境を整えることに加えて、危険な目にあいそうな場合には危険を回避する支援が必要です。

1 子どもの様子を観察しよう！

（アンケート調査では、以下のような様子が観察されています。）

○ベランダによじ登るなどの危険な行為がみられる

○道路に飛び出してしまう

2 子どもの気持ちを理解しよう！

（なぜそうなるのか、子どもの気持ちを考えてみましょう。）

○危ないということがわかっていないのかも？

○注意されても、忘れてしまうのかも？

○高いところに上りたいという欲求による行動なのかも？

○周囲の様子に注意が向かないのかも？

○かまってほしい時にやっているのかも？

3 どんな支援が効果的？

（考えられる支援の例を記載します。）

○園内の環境を、安全に遊べるように配慮しましょう

○高い場所の近くには、物を置いたり、のぼりたくなるような台を置かないようにしましょう

○危険な場面では、その都度声をかけましょう。なぜ危険なのか、なぜやってはいけないのか、理由も説明しましょう

○子どもの気持ちを踏まえて、安全に行動できる環境づくりを考えましょう

○本人の好きなこと、得意なことが受け止められ、認められたと感じられるように関わりましょう

参考 現場での取組み事例

（アンケート調査に記載された、現場での取組事例を紹介します。）

○子どもが何かをやってしまった時でも、子どもの言い分を聞き、気持ちを受け止めることで、子どもはわかってもらえたと感じて心を開いてくれる。その後、何がいけなかったのか等の話し合いに向き合ってくれる

○最初は注意がきけなくても、子どもと担任の間に信頼関係ができてくると、注意もきけるようになったので、普段から本人の好きな遊びを一緒に行うようにしている

編集委員より

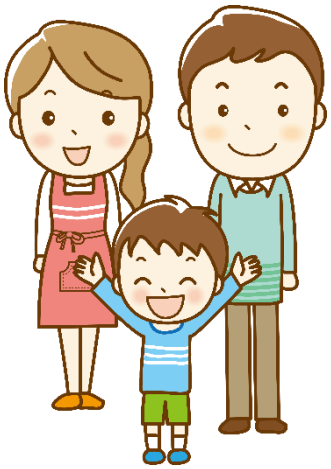
肯定的な関わりで安心を

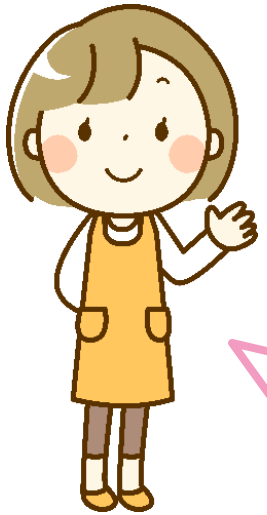
NPO法人わくわくの会　さぽーとせんたーi　小浜　ゆかり

子どもたちは人とのやりとり・遊びを通して、見る力・聞く力・考える力を育み、信頼できる大人に見守られながら、少しづつ言葉・社会性・ルールなど多くのことを学んで成長していきます。そして、保育園は子どもたちが初めて出会う集団の場でもあります。保育園生活のスタートは、親も子も不安と緊張の連続です。すぐに保育園に慣れる子もいれば、不安でずっと泣いている子もいます。言葉で想いを伝えられる子もいれば、うまく伝えられなくて叩いたり、かんしゃくで伝えようとする子もいます。時に大人の目には、子どもの気になる行動が、問題行動（否定的）に映るかもしれません。そんな時、じっくりと子どもの行動を観察し「なぜそんな行動をとったのか」子どもの視点に立って考えてみると、子どもの気持ちが見えてくるはずです。気になる行動が目立つ子どもは、どうしたらいいのかわからなかったり、わかっていても行動や気持ちのコントロールができなくて困っていることがよくあります。気になる行動を問題行動ではなく、子どもたちのSOSと捉え、気持ちを代弁・共感し受け止め「〇〇しようね」等代替行動を肯定的に伝えてみて下さい。肯定的な声かけは子どもたちの聞く力を育て、やる気スイッチを育てることにつながります。いつも傍らで『寄り添い通訳してくれる』『不安を安心に変えてくれる』そんな大人の存在が、子どもたちに人とかかわることの心地良さ、楽しさを伝えます。この体験が、人との信頼関係を築くベースとなり、子どものたちの自信になっていくはずです。

①保護者と接する際の配慮

保護者は、園での子どもの様子に様々な想いを持っています。特に、気になる様子がみられる子の保護者は、様々な不安を抱えているものと思われますので、保護者と接する際には十分な配慮が必要です。





保護者とのコミュニケーションが基本です！

○保護者と接する際の基本は、コミュニケーションを大切にするということです。できるだけ毎日コミュニケーションをとることを心がけましょう

○保護者とのコミュニケーションを通じて、信頼関係を構築することを心がけましょう

子どもの良いところを伝えましょう！

○できなかったことだけを伝えられると、保護者は不安になります。子どもの良い点、その日にできたことなどを、できるだけ具体的に伝えましょう

○子どもの気になる様子を伝える時には、まずは「子どものお家での様子」を聞いてみましょう。保護者のほうから、子どもの様子で困っていることを教えてくれるかもしれません

○気になる様子の客観的な事実を伝える際には、園ではどう対応しているかも伝え、子どもが園で受け入れられていることを伝えましょう

①保護者と接する際の配慮

編集委員より

保護者支援で大切にしたいこと

沖縄国際大学　野村　れいか

支援する側―される側といった縦の関係ではなく、ともに子どもの成長発達を見守り、関わっていく“同志”として、横並びの関係でいることが大切です。子育てに唯一の正解はありません。子どもの数だけ関わり方はあり、ある保護者－子どもの間でうまくいった対応も、親子の組合せが変われば、うまくいかないこともあります。子育てに正解やゴールがない分、試行錯誤するプロセスが大切です。園の先生方は子どもと保護者の傍らにいて、ともに試行錯誤することができる存在です。子どもに関わる同志として、保護者と一緒に試行錯誤し、そのプロセスを共有していくことが望まれます。試行錯誤する中で保護者も迷い、悩み、落ち込むことがあります。そんな時、保護者が気軽に相談できる、SOSを出せるよう、開かれた態度でいること、保護者の頑張りや工夫を認め、フィードバックすることも大切です。子どもの発達に気になることや心配があると、保護者は1人で抱え、悩みがちです。保護者が孤立しないように普段から声をかけ、繋がり続けると良いでしょう。

また、先生方が忙しそうにしている、何だか余裕がなさそうだと感じると保護者は相談しづらいようです。変化を焦らず、ゆとりをもって子どもや保護者と接することができるよう、先生方ご自身もセルフケアに努め、子どもや保護者を大切に思うように、ご自身のことも労わってあげて下さい。

保護者の気持ちに寄り添いましょう！

○普段から保護者が相談しやすい関係をつくり、子育てに関する悩みや不安を聞き、保護者に寄り添う姿勢を示しましょう

○保護者の相談を受ける際には、周囲の目が気にならず、静かで話しやすい場所を選ぶなど、保護者に配慮しましょう

○子どもの気になる様子を共有するまでには、時間がかかることもあります。その間は保護者の気持ちに寄り添い、普段と変わらず話を聞き、支援しましょう

保護者の心配事を受け止めましょう！

○保護者からの相談があった際に、安易に「大丈夫ですよ」「お母さんの心配のし過ぎでは？」「園ではお利口さんですよ」等は言わないようにしましょう

○子育ては不安や心配がつきものです。保護者が先生に聞いてもらえてよかったと思えるよう、受容・共感し、園でもできる対応をしていくこと、定期的に保護者と情報交換したいこと、変化が見られなければ、巡回相談を利用できることをお話ししましょう

②「サポートノート」の有効活用

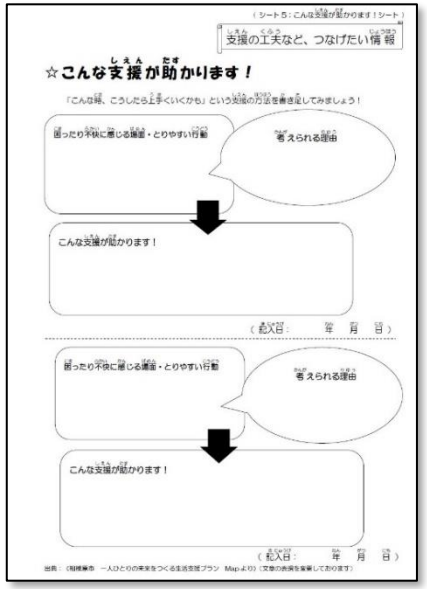
○沖縄県は、発達障害のある方もしくは発達の気になる方向けに「サポートノートえいぶる」を提供しています。必要な支援などの情報を１冊にまとめるファイル形式になっています。

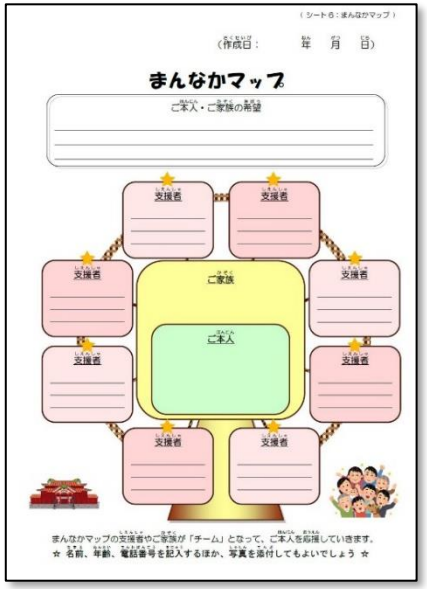
○各ライフステージにおける情報の引継ぎや共有がスムーズに行われることを目的としています。

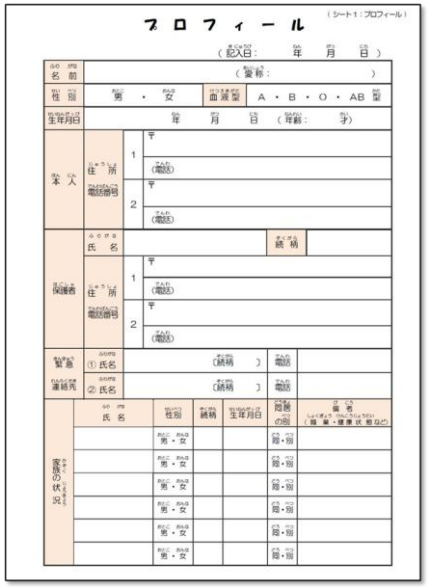
○詳しくは、下記QRコード、または「沖縄県　障害福祉課　えいぶる」と検索してください。サポートノートを有効に活用しましょう。

沖縄県　障害福祉課　えいぶる

「子ども観察シート（P５参照）」なども、はさめます！







編集委員より

「新サポートノートえいぶる」を活用しましょう！

沖縄県発達障害者支援センターがじゅま～る
天久　親紀

発達障害は持って生まれた脳機能の特性であり、その特性は、表れ方を変えながらも終生残り続けると言われています。その為、発達障害（または発達の気になる子）の支援においては、その子の特性や、それまで行われていた良い支援の情報を、関係者が引き継いでいくことが重要です。沖縄県では、ご本人のプロフィールや支援経過などの記録を一冊にまとめ、必要な情報をつづるオリジナルの支援ファイルとして、「新サポートノートえいぶる」（以下、「えいぶる」と言う。）を作成しました。

えいぶるには、本人の基礎情報を記入する「プロフィールシート」の他にも、用途に合わせた、様々なシートが用意されています。例えば、本人が困ったときにしてほしいことや、関わる際の工夫などを記録する「こんな支援が助かりますシート」や、どのような機関や支援者が関わっているか、ひと目で分かる「まんなかマップ」などは、支援にも活かせる内容となっています。

えいぶるは、沖縄市障がい福祉課、子ども相談・健康課、教育委員会で受け取ることができます。また、インターネットでダウンロードしていただくことも可能です。まずは、支援者の方々がえいぶるの内容を理解し、えいぶるが必要な保護者へ情報提供していきましょう。

編集委員より

保護者と子どもの様子を共有するには？

沖縄国際大学　野村　れいか

保護者と「子どもの様子を共有する」のは、どんな時でしょうか。子どもの言動や発達に気になることがある場合に「子どもの様子を共有する」ということでは、保護者からすると避けたい時間になる可能性があります。子どもの様子を共有する目的は何か、ということを考えることも必要でしょう。子どもの育ちを保護者と一緒に見守り、その子に合った関わりや環境を考えることが「保護者と子どもの様子を共有する」目的ではないでしょうか。そのためには気になることだけでなく、子どもの強みやできたこと、変化した点についても日頃から保護者に伝え、共有するというスタンスが望まれます。

また、子どもの見せる姿は園と保護者の前で異なることも多々あります（大人も相手や場面によって態度が異なることは自然なことです）。その当たり前のことを忘れずに、先生方からみた子どもの姿について一方的に伝えるのではなく、適宜保護者に家での様子を聴いたり、伝えたことについて保護者はどう受け止めたのか、理解したのか、質問はないか等、確認したりしながら子どもの様子を共有していきます。共有するためには双方向のやりとりが基本となります。家での子どもの姿や保護者の対応は園生活における関わりを工夫するうえでヒントになることがたくさんあります。保護者から家での様子について教えてもらい、共有することで子どもの理解がより深まると考えます。

①気づきから支援までの流れ

保育所・幼稚園における、気になる子への気づきから、専門機関による支援を受けるまでの大まかな流れを整理しました。

保育者の気づき（気になる子、発達障害の疑いがある子に気づく）

↓

子どもの様子の観察（「手引き」の活用）

↓

支援体制づくり
・園での話し合い　　・「手引き」による支援の実践

↓

市への相談
・巡回相談はっち

↓

アセスメント（保育者からの聞き取り、行動観察、発達検査、保護者相談等）

↓

関係機関の情報の共有

↓

発達支援保育（幼稚園特別支援教育）
・個別支援計画の作成　　※関係機関の情報共有

↓

幼稚園・小学校（特別支援学級含む）
・個別支援計画の作成
※関係機関の情報共有

療育等の支援
・親子通園きらきら
・沖縄市子ども発達支援センター（親子通園・保育所等訪問支援等）
・児童発達支援事業所（単独通園）
・医療機関

■まずは現場で！

「手引き」を活用し、まずは現場で子どもの支援を工夫しましょう。

園全体での支援体制づくりを考えましょう。

■専門機関につなぎます！

園で関わりを工夫しても気になる様子に変化がみられない、発達障害などが心配されるお子さんについては、巡回相談「はっち」につなぎましょう。

②保育所・幼稚園での支援

②－１　園全体で協力して支援しましょう

担任は・・

- ○１人で悩まないようにしましょう
- ○日々の気づきや保護者からの相談内容を大切にしましょう
- ○子どもの様子を観察して、実態を把握し、支援に活かしましょう（「子ども観察シート（Ｐ５参照）」の活用も有効です）
- ○会議等をうまく活用し、情報を共有しよう

園は・・

- ○園全体で組織的に支援する体制を、園内に作りましょう（例：園内委員会など）
- ○担任間での引き継ぎのしくみや方法を明確化しましょう
- ○加配保育士、特別支援担当などの配置を、必要に応じて検討しましょう
- ○加配保育士を置いた場合には、担任との間の役割り分担を明確にしましょう
- ○保護者への説明は、保護者の気持ちに配慮して注意して行いましょう

（例）「子ども観察シート」の活用（➡Ｐ５）

○子どもの様子を観察して支援内容を考え、実際に支援してみるという経験を蓄積し、園内で共有しましょう。Ｐ５に記載した「子ども観察シート」を使うのも１つの方法です。

会議等の場の有効活用

○園での会議の場などを活用して、担当しているお子さんの様子や支援における悩み等を積極的に話題にあげて共有しましょう。他の保育者と意見交換し、支援の質を高めましょう。

○支援方法はできるだけ記録し、資料にしたりして共有しましょう（その際にも「子ども観察シート」は有効に活用できます）。

園内委員会

○組織的な支援体制として、「園内委員会」を設置することも有効です。担任の気づきなどの情報を全体で共有し支援方法について意見交換する場の定期開催だけでなく、支援が必要な子どもの実態把握、個別の指導計画の作成・評価・見直し、保護者との連携などを実施します。

②－２　子どもが自分で行動しやすくなるよう支援しましょう

○１日の予定が、言葉だけでは聞き取れなかったり、理解できなかったりする子がいます。１日のスケジュールをわかりやすく表現して、みやすい場所に掲示すれば、子どもが次の予定を理解することができ、安心して過ごせます。

○できるだけ、子どもが自分でできるようにしてあげることが大切ですから、次の予定の時間を子ども自身が意識して行動できるように支援することが大切です。そのため、時間の表示を、数字だけでなくアナログ時計の絵を添えると、実際の時計と見比べることができ、子どもにもわかりやすい表示となります。

○「あそび」から「おあつまり」など、次の予定に移る際には、気持ちの切り替え、片付け、移動などが必要となることがあります。子ども自身が切り替えやすように、支援することが大切です。片付け場所や移動の際の動線の視覚化なども有効な支援です。

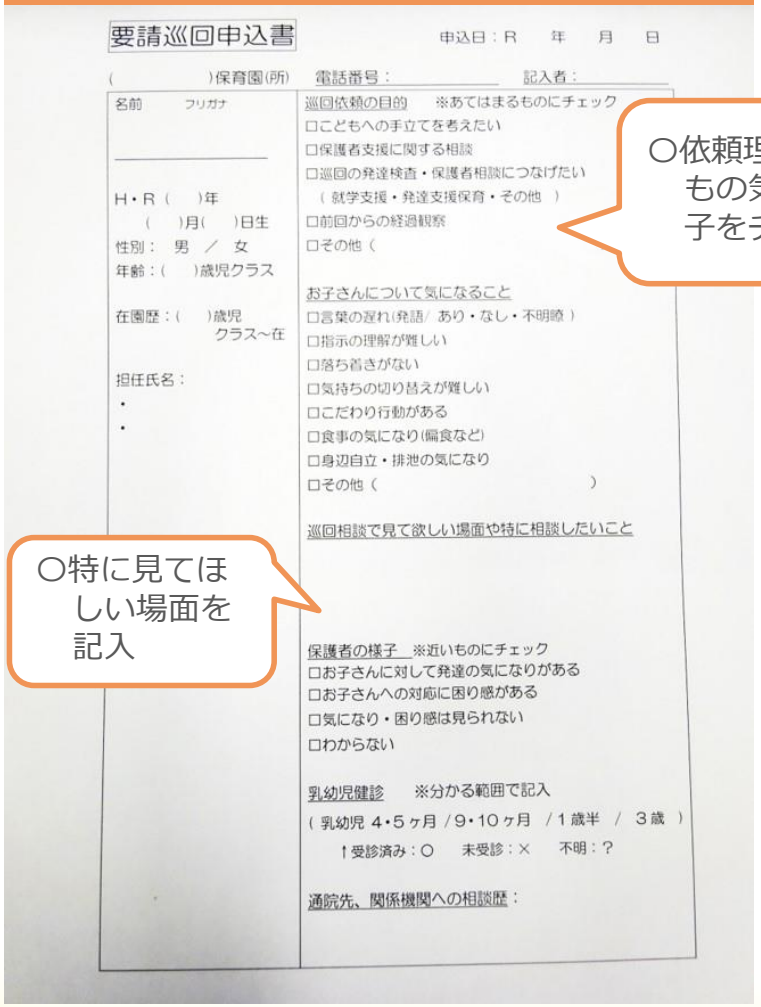
○子どもが「ひとりでできる」ようになることが支援のめざすところですから、どこまで支援するかということは重要な課題です。子どもにわかりやすく視覚化することで、子ども自身が判断し、行動できるような環境を整えることが基本です。

9:00	あそび	遊びの終わりを時計やカードなどを使って片付けの予告をしよう
10:00	おあつまり	どこに集まるかわかりやすく示してみましょう
11:30	おひる	お食事が楽しみになる様な声を掛けてみましょう
1:00	おひるね	部屋を少し暗くして静かな環境をつくりましょう
3:00	おやつ	生活の場所を分けて行動しやすいようにしましょう。子どもにはお楽しみの時間！
4:00	あそび	落ち着いて遊べる環境や遊びをかんがえてみましょう
6:00	さようなら	明日のお楽しみが持てるこえをかけましょう 笑顔で「さようなら」

③巡回相談「はっち」

○心理士や保育士が保育所・幼稚園を訪問し、子どもたちの集団の様子を観察しながら、職員に対する相談や助言を行います。必要に応じて、保護者相談や発達検査を実施します。「手引き」を参考に、園で対応しても変化が見られない時は「はっち」にご相談ください。

要請巡回申込書



要請巡回申込書　　申込日：R　年　月　日

（　　）保育園(所)　電話番号：　　記入者：

名前　フリガナ

H・R（　）年
（　）月（　）日生
性別：男 ／ 女
年齢：（　）歳児クラス

在園歴：（　）歳児
クラス～在

担任氏名：
・
・

巡回依頼の目的　※あてはまるものにチェック
□こどもへの手立てを考えたい
□保護者支援に関する相談
□巡回の発達検査・保護者相談につなげたい
（就学支援・発達支援保育・その他）
□前回からの経過観察
□その他（

お子さんについて気になること
□言葉の遅れ(発語/ あり・なし・不明瞭)
□指示の理解が難しい
□落ち着きがない
□気持ちの切り替えが難しい
□こだわり行動がある
□食事の気になり(偏食など)
□身辺自立・排泄の気になり
□その他（　　）

巡回相談で見て欲しい場面や特に相談したいこと

保護者の様子　※近いものにチェック
□お子さんに対して発達の気になりがある
□お子さんへの対応に困り感がある
□気になり・困り感は見られない
□わからない

乳幼児健診　※分かる範囲で記入
（乳幼児 4・5ヶ月 / 9・10ヶ月 / 1歳半 / 3歳）
↑受診済み：○　未受診：×　不明：？

通院先、関係機関への相談歴：

○依頼理由や子どもの気になる様子をチェック

○特に見てほしい場面を記入

○園で対応してみたけど、子どもの変化が見られないな・・・
○外部の機関と一緒に考えたいな。
○保護者支援、どうしたらいいかな？

○園で対応しても変化が見られない時は、巡回相談「はっち」にご相談ください！

巡回相談「はっち」
TEL：098-989-1307
FAX：098-989-1422

申し込み方法

1. 巡回相談「はっち」に電話で申し込み
2. 養成巡回申込書（左図）の提出
3. 巡回日の調整・決定
4. 巡回相談

④個別の支援計画のポイントと活用法

○専門的な支援が必要なお子さんには、その子にあわせた個別の支援計画をつくります。下記は、沖縄市の「個別支援計画」の様式です。記入例のように、子どもの様子を踏まえた上で目標と支援方法を記載します。
（掲載した「個別の支援計画」の様式は令和２年度のものです。今後、変更する可能性があります。）

様式② 3,4,5 歳児用

個別の支援計画（前期・後期）

園・所長		主任		巡回	

令和　　年　　月～　令和　　年　　月

担任　　印

園児氏名		男・女	生年月日	クラス
			H・R　年　月　日生	歳児
こどもの良いところ		こどもの苦手なところ		
保護者の願い			診断名	
年間目標				

領域	こどもの姿	目標と支援方法
食事		
着脱		
排泄		
意思の伝達		
運動・動作		
交友・遊び・決まりを守る等の様子		
備考		

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

個別の支援計画（前期・後期）　**記入例**

令和　　年　　月～　令和　　年　　月

担任　　印

園児氏名	巡回（じゅんかい）　花子（はなこ）	男・女	生年月日	クラス
		女	H・R28 年　5 月 1 日生	3 歳児
こどもの良いところ ・水遊びが好き ・虫や動物が好き		こどもの苦手なところ ・感触遊びが苦手		
保護者の願い	・保育園に喜んで登園してほしい		診断名	
年間目標	・保育士やお友達と楽しく関わることができる			

領域	こどもの姿	目標と支援方法
食事	・生野菜が苦手で食べられず残ってしまい離席してしまう。	・保育士が近くにいることで、食べられなくても安心して座っていることができる。
着脱	・注意がそれてしまいとりくむまでに時間がかかる。	・環境を整え気が散らないようにすることで、次の活動に見通しが持てるようにする
排泄	・尿意便意は伝えないが時間排泄でトイレ排泄ができる。	・尿意・便意をジェスチャーで伝え、伝えた時は褒めて自信につなげる。
意思の伝達	・自分の思いを伝えることができず、目で訴えたりだまってしまう。	・保育者が思いを汲み取り代弁することで指さしや単語で伝えるようになる
運動・動作	・リトミックやおゆうぎをするのが苦手で見ていることが多い。	・お友達の参加している姿に興味がもてるような声かけをする。保育者と一緒に参加できそうなときは促すことで部分参加ができる
交友・遊び・決まりを守る等の様子	・室内ではままごと遊びを楽しむ。 ・戸外遊びでは、虫探しや走るのが好きである。	・好きな遊びだとおともだちの傍で並行遊びができるようになる。保育者は友達の遊んでいる様子に気づかせる声かけをし、一緒に遊びを楽しんでいく
備考		

④個別の支援計画のポイントと活用法

1　子どもに合った目標と手立てを検討する

○子どもの実態を把握し、6か月間で達成可能な計画を立てる

スモールステップ（実力＋１の課題設定）が良い。

（例）自分の気持ちを上手く伝えられない子に対し、「読み聞かせの絵本を保育者と一緒に選ぶことができる」という目標を立てると、最初は指さしで選ぶ、次に保育者の問いかけに言葉で答えるなど、保育の中で手立てを実施します。スモールステップだと、成功体験を積むことができ、ほめる機会が増えます。

2　保護者と共有し、保護者の子育てをサポート

○発達課題や特性の理解を深め、具体的な関わり方を保護者と共有する

保護者も子どもにどう関わっていいのか分からないことがあります。子どもの発達を支えるためには、まず家族を支えることが大切です。個別の支援計画をもとに保育者の子どもへの接し方について連携し、保護者が子育ての喜びを感じられるよう支援しましょう。

3　移行支援資料として、引継ぎましょう

○現在行われている支援が、次のクラスや施設でも参考になります

移行支援資料として引き継ぐときは、必ず保護者の許可をとりましょう。切れ目のない支援のツールとして活用できるようにしましょう。

※支援は、保護者の気づきや気持ちに寄り添い、進めていきます。

⑤沖縄市の発達支援に関する年間スケジュール（就学前児童）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	5歳児・保護者と担任で小学校への特別支援学級見学	小学校への特別支援申請受付・教育委員会指導課へ	4歳児・保護者と担任で幼稚園へ特別な支援見学	小学校就学相談	幼稚園への特別な支援申請	小学校就学相談判定結果送付及び保護者の意見書提出	幼稚園特別な支援に関する就園相談			移行支援	
				発達支援保育申請受付　保育・幼稚園課	県立美咲特別支援学校幼稚部入試説明会	県立美咲特別支援学校幼稚部教育相談	保育所入所受付　保育・幼稚園課	県立美咲特別支援学校幼稚部入試	県立美咲徳別支援学校幼稚部合格発表	発達支援保育協議会	幼稚園特別な支援が決定	保育所入所及び発達支援保育決定

特別支援について検討する場合は、保護者と園で小学校や幼稚園での特別支援の見学をしましょう。どんな支援が行われているか保護者と確認し、支援を申請するかどうか保護者と相談をしましょう。

《凡例》
- 小学校入学に向けての支援
- 発達支援保育に向けての支援
- 幼稚園入園に向けての支援
- 美咲特別支援学校幼稚部に向けての支援

※支援のスケジュールは、変更になる場合がありますので、
巡回相談「はっち」（TEL：098-989-1307）、保育・幼稚園課（TEL：098-939-1215）
にお問い合わせください。

①発達障害について

〇気になる様子がお子さんの中には、発達障害が原因である場合があります。発達障害には、おもに３つのタイプがあります。

自閉スペクトラム症
（Autism Spectrum Disorder：ASD）

〇自閉スペクトラム症（ASD）の主な特性は、「社会的なやりとりの障害」「コミュニケーションの障害」「こだわり行動」の３つです。

主な特性

①人との関りが苦手
- 人と目を合わせない
- 名前を呼ばれても反応しない
- 相手や状況に合わせた行動をとるのが苦手
- 自己主張が強く一方的な行動が目立つ

②コミュニケーションがうまくとれない
- 言葉の遅れ
- 言われた言葉をそのまま繰り返す（オウム返し）
- 相手の表情から気持ちを読み取れない
- たとえ話を理解することが苦手

③こだわりがある・想像力が乏しい
- 言われたことを表面的に受け取りやすい
- 「ままごと遊び」をあまりしない
- 決まった順序や道順にこだわる
- 急に予定が変わるとパニックを起こす

注意欠如・多動症
（Attention-deficit hyperactivity disorder：ADHD）

〇注意欠如・多動症（ADHD）によく見られるのは、「不注意」「多動性」「衝動性」という、おもに行動面における特性です。

主な特性

①不注意
- 集中力がない
- 物をよく無くす
- わすれものが多い
- 細かいことに気がつかない
- 課題に取り組んでも、すぐに飽きてしまう

②多動性
- じっとしていられない
- 静かに遊んだり、読書をしたりすることが苦手
- 手や足をいつもいじっている
- 授業中でも物音をたてたりする

③衝動性
- 順番を待てない
- 列に割り込む
- 先生からあてられるまえに答えてしまう
- 他の児童に干渉する

①発達障害について

限局性学習症
（Learning Disability：LD）

〇学習障害（LD）は、知能全般は正常だが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」などの知的能力の一部が遅れている状態です。

主な特性

①「聞く」ことの障害
- 会話が理解できない
- 文章の聞き取りができない
- 長い話に集中できない

②「話す」ことの障害
- 筋道をたてて話すことが苦手
- 会話に余計なことが入ってしまう

③「読む」ことの障害
- 文字を発音できない
- 単語を読み違える（例：「つくえ」を「つえく」など）

④「書く」ことの障害
- 文字が書けない、誤った文字を書く

⑤「計算する」ことの障害
- 数字の位どりが理解できない

⑥「推論する」ことの障害
- 因果関係の理解や説明が苦手
- 直接示されていないことを推測するのが苦手

編集委員より

沖縄市へのエール

弘前大学大学院医学研究科　神経精神医学講座
斉藤　まなぶ

沖縄市の皆さん、こんにちは。私は青森県弘前市で乳幼児健診を担当している児童精神科医です。この度は、学識経験者として手引きの編集に参加させていただきました。手引きを作る際の園へのアンケートで、子どもたちの対応で悩むケースだけでなく、子どもに対応する多くの方々の知恵や経験で子どもたちが良い方向に変わったという情報もいただき、たくさんの方々が子どもの育ちに関心を持ち、関わっていただけていることを実感しました。作成の過程では、子どもたちのために広く活用してもらえるように、発達の目安になるマイルストーンについての情報や、子どもの気になる行動への理解が丁寧に示されました。これまでこの地域ですでに活用されている資料なども紹介され、大変充実した内容と思います。

子どもにとって望ましい環境とは、①信頼できる大人と毎日遊びの中から学びがあること、②子どもにとって安全で十分な遊びの材料や環境が準備されること、③子どもたちの成長を促進するための生活習慣が整うこと、④発達を正しく評価し関りによって更なる発達が促されることです。これらを大人たちが作ることにより、子どもたちは自ずと行動し自分で考え判断することを学んでいきます。乳幼児は人生の中で非常に重要な時期です。沖縄市でもさらに多くの方々が子どもたちの発達に関心をもち、毎日楽しくかかわっていただけることを強く望みます。この手引きをできるだけ多くの方々にご活用いただければ幸いです。

参考文献：Ann S. Epstein. Essentials of Active Leaning in preschool. 2014

編集委員より

医療からみた発達支援　～子どもの健やかな成長のためには～

沖縄中部療育医療センター院長　高良　幸伸

発達障害における医療の役割は、発達障害を治療して治す事ではなく、子どもの持っている発達する力を医療的側面からサポートすることである。なぜなら発達障害は病気ではなく発達の特性だからである。

但し、発達障害に伴う多動や集中力の低下、情緒の不安定、睡眠リズムの乱れ等は子どもの健全な発達に悪影響を及ぼすことがあるため、薬物治療を要しかつ有効の場合がある。また、言語や運動の発達を促すために言語療法や作業療法等のリハビリを行っている。

発達期の子どもにとって大切な事は、第一に健康で、そして十分な食事と睡眠である。それが心と体の成長と発達を支える基盤になる。本来子どもが持っている成長、発達する能力を引き出して促すのは、子どもに合った保育環境である。子どもの心が安心安全に満たされて情緒面が安定し、自分から楽しく意欲をもって行動することで、自身が持っている成長発達する力が芽生えて促進される。その子どもたちの保育環境を整えていくことが保育者には必要で重要な事である。そのために、医療機関の役割としてお手伝いできる事をこの場で伝えることができればと思う。

医療機関を受診する保護者は、皆子どものことを心配して大きな不安を抱えている。その不安を少しでも軽減させて明日からの子育てに安心して希望が持てるように保護者には接することをいつも念頭に診療している。そのためには、先ず子どもの発達を適切に評価し、その結果を保護者に十分に理解してもらい、その次に子どもの発達段階に応じた適切な支援について検討を行い、支援の在り方を保護者と相談を行う。支援を開始した後は、その後の発達フォローを行い、必要に応じて子どもと保護者をサポートする。大事な事は、保護者は孤立してはいけないことである。周りにいつでも相談ができる支援者を作ることが大切である。医療機関もまた支援者の一人であると考える。

診断する事については、診断が重要ではなく先ず子どもの発達を理解し、それに基づいた家庭や保育園等での支援、いわゆる保育環境を整えたり関わり方を工夫したりする事が重要である。その上で、診断することでさらに支援が拡大、充実する事を保護者が納得した時に診断が必要になる。

発達が気になる子どもがいたら、先ず子どもの様子に注目して、その子に応じた日常的な支援を保護者と情報共有しながら行い、子どもの成長が共に確認できると保護者の信頼と安心を得られ、必要に応じて医療機関に相談することに繋がりやすくなると思う。

②沖縄市の相談機関

相談機関	相談内容	相談方法	連絡先
巡回相談「はっち」	心理士や保育士が、保育所・幼稚園等を訪問し、子どもたちの集団の様子を観察しながら、職員に対する相談や助言を行います。必要に応じて、保護者相談や発達検査を実施します。	電話で依頼後 要請巡回依頼書を提出	沖縄市福祉文化プラザ内 こども相談・健康課 巡回相談「はっち」 ☎098-989-1307
子育て世代 包括支援センター 結ぽ～と	妊娠・出産・子育てに関する「総合相談窓口」 保健師、助産師、栄養士、精神保健福祉士等の専門職が、電話や来所での相談に応じています。情報提供、各種相談窓口の紹介も行っています。	電話相談 来所相談 必要に応じて家庭訪問実施	沖縄市役所２階 こども相談・健康課 ☎098-939-1252
にじいろ発達相談	６歳未満の幼児に関する精神発達面や言葉の遅れ等についての保護者からの相談に、心理士が個別で応じます。	電話にて予約	沖縄市役所 こども相談・健康課 ☎098-939-1252
発達相談窓口 「こねくと」	０歳から小学生までの児童を持つ保護者やその関係者に対し、子どもの育ち（発達）について、心理士が相談に応じます。継続的な相談やお子さんが通う、保育所・幼稚園・小学校との連携を図ります。	電話にて予約	沖縄市福祉文化プラザ内 こども相談・健康課 発達相談「こねくと」 ☎098-989-1422
親子通園 「きらきら」	就学前までの発達が気になる児童と保護者が親子で通園し、小集団での子どもの様子、発達状況を確認します。保護者相談や通園を終えた児童の所属施設への移行支援も行っています。	「きらきら」へお問い合わせください。	沖縄市福祉文化プラザ内 こども相談・健康課 親子通園「きらきら」 ☎098-930-2122
沖縄市 こども発達支援センター （旧児童発達支援事業所「つくし園」）	就学前までの発達の遅れや偏りが気になる児童と保護者が親子で通園しながら、発達に必要な療育を受ける場です。専門家による発達相談、言語指導もあります。また、保育所等を訪問し集団生活に適応するための専門的な支援を行う保育所等訪問支援も行っています。利用には、受給者証が必要です。	沖縄市こども発達支援センターへお問い合わせください。	沖縄市こども発達支援センター ☎098-934-1283

②沖縄市の相談機関

相談機関	相談内容	相談方法	連絡先
沖縄市 家庭児童相談室	子どもの成長や発達など、保護者の子育てに関する様々な悩みや負担感を軽減できるよう、相談を行っています。 【具体的な相談・対応】 ・子どもの養育に関する相談 ・不登校や非行に関する相談 ・児童虐待通告の受付および調査 ・要保護児童対策地域協議会による組織的支援のコーディネート	まずはご連絡ください。 電話や来所にて、対応いたします。 ＜相談受付時間＞ 月～金曜日 （9:00～12:00／ 13:00～16:00）	沖縄市役所 こども相談・健康課 こども発達支援担当 ☎098-939-1212 （内線：2285,3198） 家庭児童相談室直通 ☎098-929-3135
沖縄市 保育・幼稚園課	・認可保育園に関する相談 ・認可外保育園に関する相談 ・幼稚園に関する相談	電話でご相談ください 月～金：8:30～17:15	☎098-939-1215
沖縄市 教育委員会 指導課	学校生活における困りごと、特別支援教育に関すること 外国籍児童の編入学について、その他	電話でご相談ください 月～金：9:00～12:00 13:00～17:00	☎098-939-1212 （内線：2756）
沖縄市 青少年センター	小中学生の問題行動に関する相談 （不登校、喫煙、深夜徘徊、不良交友、家出、いじめ）	電話でご相談ください 月～金：9:00～12:00 13:00～17:00	少年相談テレフォンおきなわ ☎098-930-1355
	中学校卒業～39歳までの若者相談		若者相談窓口 ☎098-933-8636
沖縄市 教育研究所	心理的、情緒的要因による不登校児童生徒に関する相談 （学校生活、家庭生活、適応指導教室等）	電話でご相談ください 月～金：8:30～17:15	☎098-989-6566
沖縄市 障がい福祉課	障害児・者等の日常生活上の困りごとや心配事に関する相談 ※沖縄市委託支援事業所５事業所交代で対応を行っています。	電話で問い合わせください 月～金：9:00～17:15	☎098-923-0927

③広域の相談・関係機関

相談機関	相談内容	相談方法	連絡先
沖縄県 発達障がい者支援センター がじゅま～る	発達障がい児・者の支援に携わる方、又は発達障がいならびに、その可能性のある方やそのご家族の方対象に、より身近な地域で細やかな相談が受けられるよう、コーディネートや情報提供などを行います。	電話でご相談ください 月～金9:00～17:00 次頁やホームページもご覧ください http://www.okinawa-gajyumaru.jp/	☎098-982-2113
沖縄県総合教育センター 教育相談研究室	・学校不適応、不登校に関すること ・いじめに関すること ・相談機関等の情報提供など	電話でご相談ください 火・水・木：9:00～11:30 月・火・水・木：13:30～16:30	☎098-933-7537
沖縄県総合教育センター 特別支援教育班	・障がいのある子どもの子育てに関すること ・学校教育における手立て、指導に関すること ・専門医による医療相談に関すること	電話でご相談ください 火・水・木・金：9:00～11:30 月・木・金：13:30～16:30	☎098-933-7526
沖縄県 子ども若者みらい相談プラザ sorae（ソラエ）	ニート、ひきこもり、不登校など様々な悩みを抱える子ども・若者（０歳～おおむね39歳以下）とその家族の方々の悩みに対応するワンストップ相談窓口	電話、来所、訪問相談 火～土：10:00～18:00	☎098-943-5335 （那覇市首里石嶺町4-373-1）

③広域の相談・関係機関

○沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま～るでは、発達障害に関する様々な情報を提供しています。「新サポートノートえいぶる」の紹介、外国人保護者向けパンフレットなども提供しています。

新サポートノートえいぶる ご活用ください！

ご本人のプロフィールや支援の経過などの記録を一冊にまとめ、必要な情報をつづるオリジナルファイルです。
各ライフステージにおいて、スムーズな情報の引き継ぎ・共有が図られることで、一貫したよりよいサポートが受けやすくなることを目的に作成されました。

沖縄県　障害福祉課　えいぶる　で検索！

※ えいぶるの各シートは、沖縄県 子ども生活福祉部 障害福祉課ホームページからダウンロードして入手できます。

お住まいの市町村(福祉課/子ども福祉課・教育委員会等)でもらえます。

発達障害に関する情報を提供しています

幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教育等に関する情報を提供しています

発達障害教育　検索

発達障害教育情報センター
http://icedd.nis推進センター

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

各ライフステージの情報を提供しています

発達障害情報　検索

発達障害情報・支援センター
http://www.rehab.go.jp/ddis/

国立障害者リハビリテーションセンター

外国人保護者向けパンフレット
「お子さんの発達について心配なことはありますか」
～日本で子育てをしている保護者の方へ～
発達障害情報・支援センターで発行しています。多言語対応のパンフレットです。

【　問合せ先　】
沖縄県発達障がい者支援センター　**がじゅま～る**
〒904-2173　沖縄市字比屋根 5-2-17（ 沖縄中部療育医療センター内 ）
TEL：(098) 982-2113　　FAX：(098) 982-2114

④編集委員

区分	氏　名	所属等	備考
医師	高良　幸伸	沖縄中部療育医療センター　院長 医師	委員長
支援専門家	小浜　ゆかり	NPO法人わくわくの会　さぽーとせんたーｉ　所長 相談支援専門員・作業療法士	副委員長
医師 学識経験者	斎藤　まなぶ	弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座　准教授 医師	
保育 学識経験者	羽地　知香	沖縄女子短期大学　児童教育学科　助教	
学識経験者	野村　れいか	沖縄国際大学　総合文化学部　人間福祉学科　講師 公認心理師・臨床心理士	
専門機関	天久　親紀	沖縄県発達障害者支援センターがじゅま～る　主任 公認心理師・臨床心理士	
幼稚園教諭	古謝　百合子	沖縄市立中の町幼稚園　副園長	
保育士	山里　香織	社会福祉法人　若草福祉会　さかえ保育園 発達支援保育主任	

⑤参考図書

『発達障害の子をサポートする「気になる子」の保育実例集』（著者：腰川　一惠　　発行所：池田書店）

『子育てを元気にすることば～ママ・パパ・保育者へ～』（著者：大豆生田　啓友　　発行所：エイデル研究所）

『幼児期の教育　しぐさや言葉に魅せられて　～出会いの数だけ感動がある～』
（著者：大湾　由美子　　発行所：沖縄時事出版）

『子どもの世界をどうみるか　行為とその意味』
（著者：津守　真　　発行所：日本放送出版協会　NHKブックス526）

『子どもはみんな問題児』（著者：中川李枝子　　発行所：新潮社）

『発達障害の子どもの心と行動がわかる本』（著者：田中康雄　　発行所：西東社）

『発達障害の子どもが持っている長所に気づいて、伸ばす本　隠れている“得意”をつぶさない対応とサポート』
（著者：宮尾益知　　発行所：河出書房新社）

『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』（著者：shizu　　発行所：講談社）